

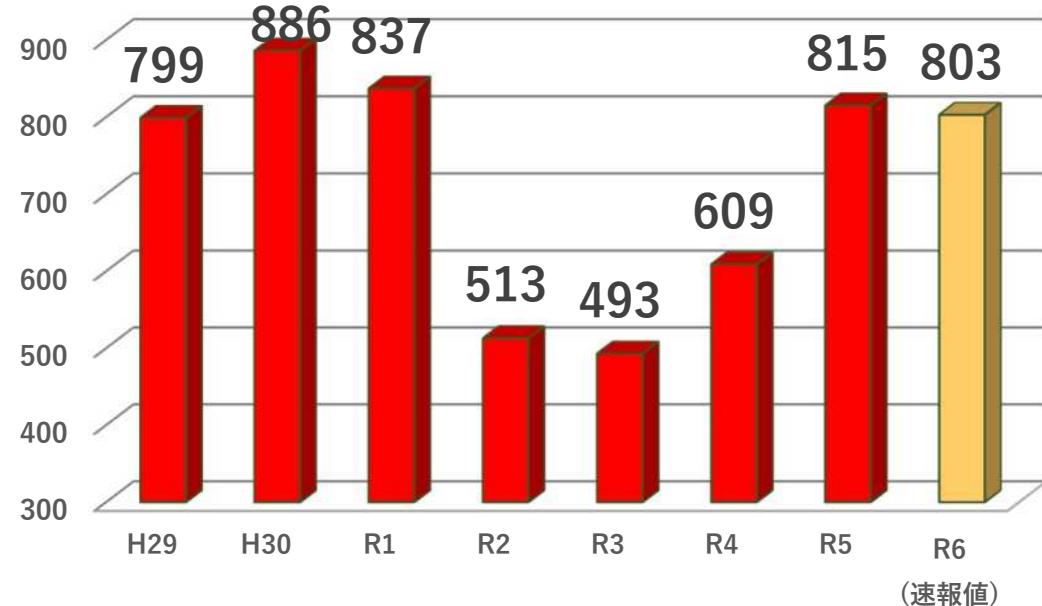
4. 個別産業の動向 (6) 観光

ア 延べ宿泊者数(約803万人泊)

(単位:人泊)

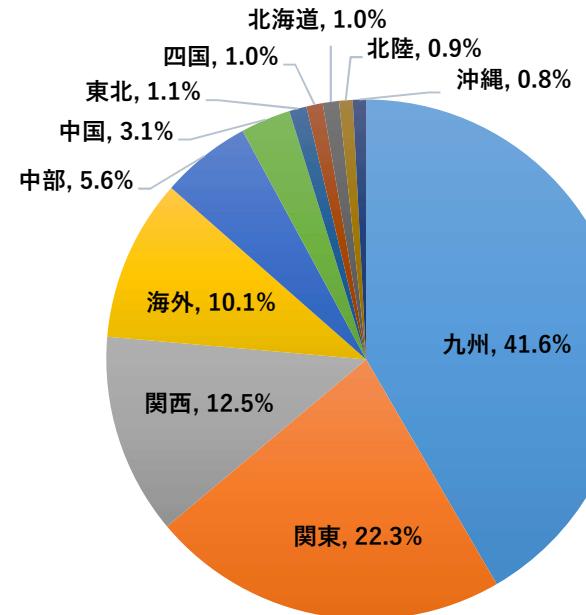
	令和6年 (速報値)	令和5年
延べ宿泊者数(1~12月)	8,032,490	8,152,790

(単位:万人泊)



(資料:観光庁「宿泊旅行統計調査」)

発地別県外延べ宿泊者数構成比



(資料:「鹿児島県観光動向調査」)

令和6年の延べ宿泊者数(速報値)は、旅行需要の回復により、コロナ前の令和元年と比較し、同水準まで回復した。
発地別県外宿泊者は、多い順に九州、関東、関西となっている。

4. 個別産業の動向 (6) 観光

イ 外国人延べ宿泊者数(約59.8万人泊)

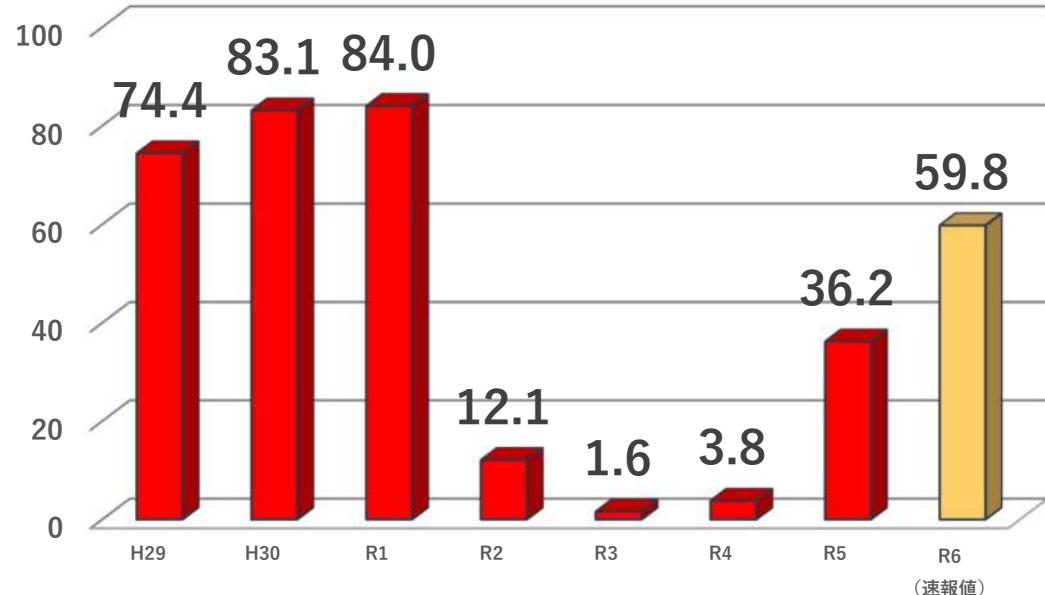
(資料:観光庁「宿泊旅行統計調査」)

(単位:人泊)

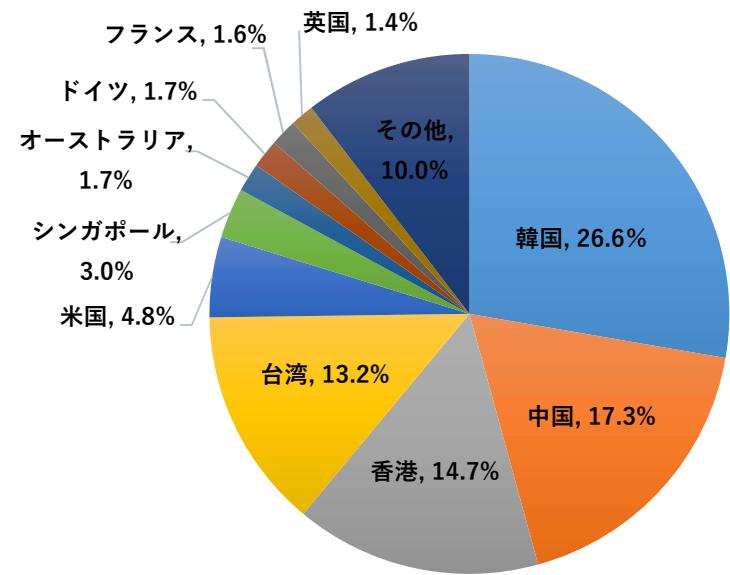
	令和6年 (速報値)	令和5年
外国人延べ宿泊者数(1~12月)	597,900 (478,420)	361,550 (269,980)

()は、従業者数10人以上の施設の宿泊者数

(単位:万人泊)



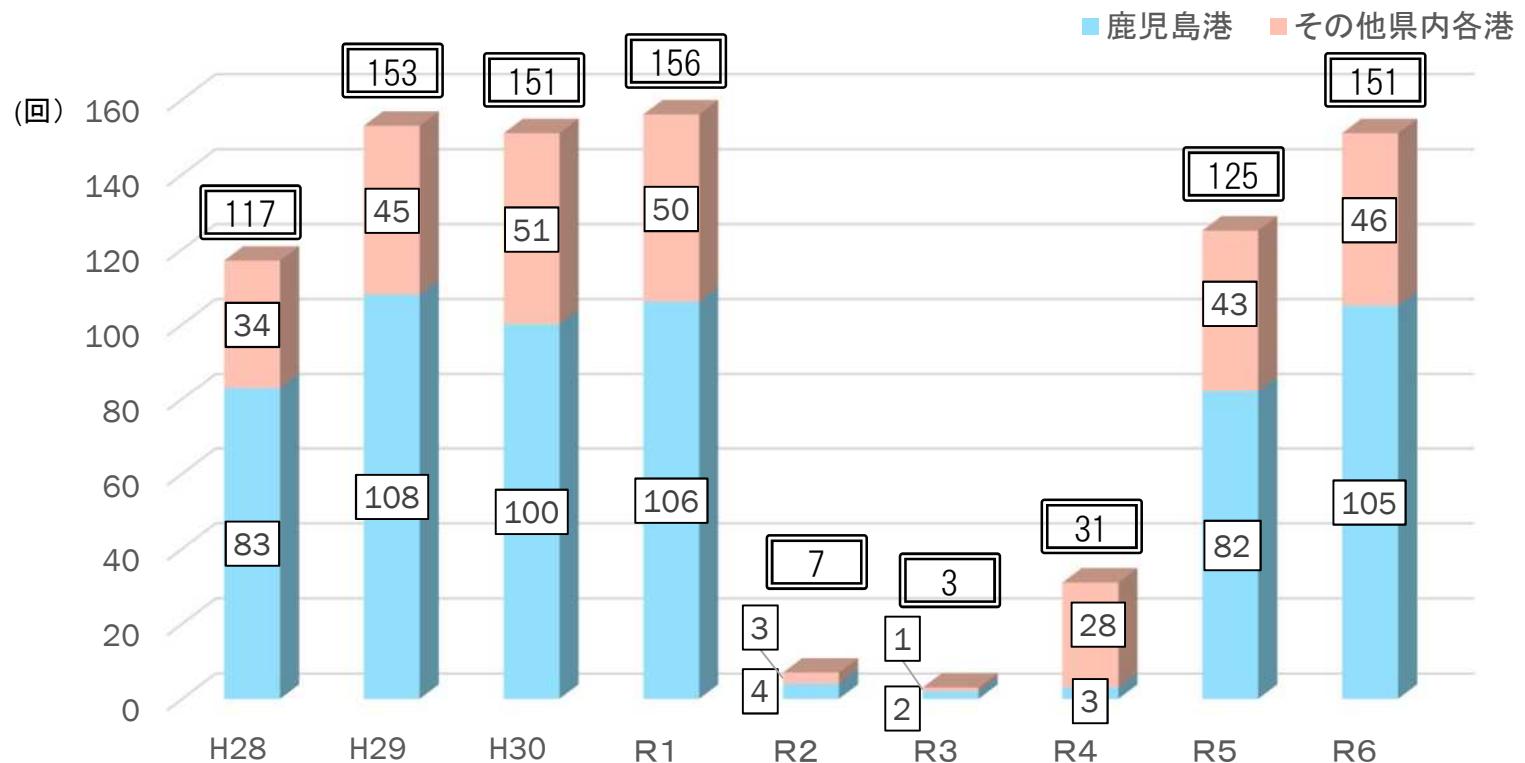
国・地域別外国人延べ宿泊者数



令和6年の外国人延べ宿泊者数(速報値)は、対前年比65.4%となった。
国・地域別外国人延べ宿泊者数は韓国が26.6%，次いで中国，香港と続く。

4. 個別産業の動向 (6) 観光

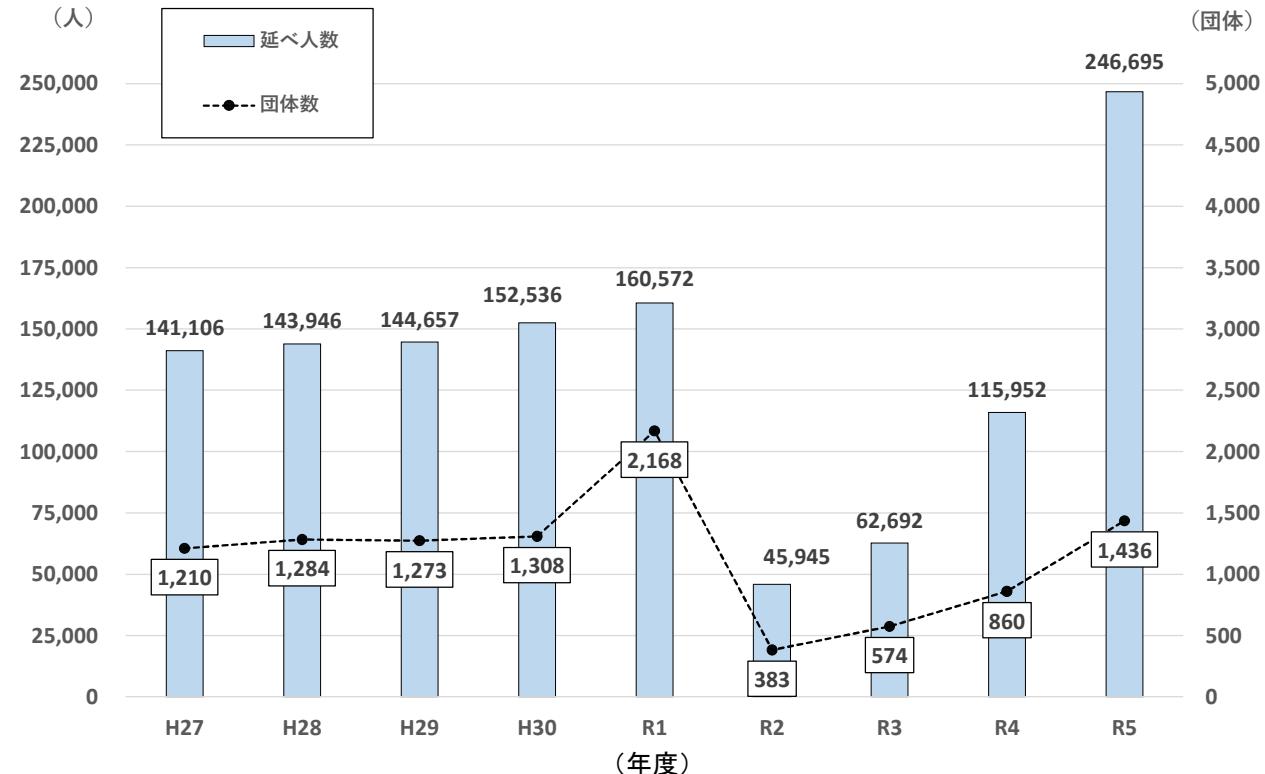
ウ クルーズ船の寄港状況



	鹿児島港	西之表港	宮之浦港	名瀬港	その他				
鹿児島港	83	108	100	106	4	2	3	82	105
西之表港	5	3	2	6				1	3
宮之浦港	18	24	24	17	1	1	18	13	19
名瀬港	6	13	21	20	2		9	17	11
その他	5	5	4	7			1	12	13

4. 個別産業の動向 (6) 観光

エ スポーツ合宿の受入状況

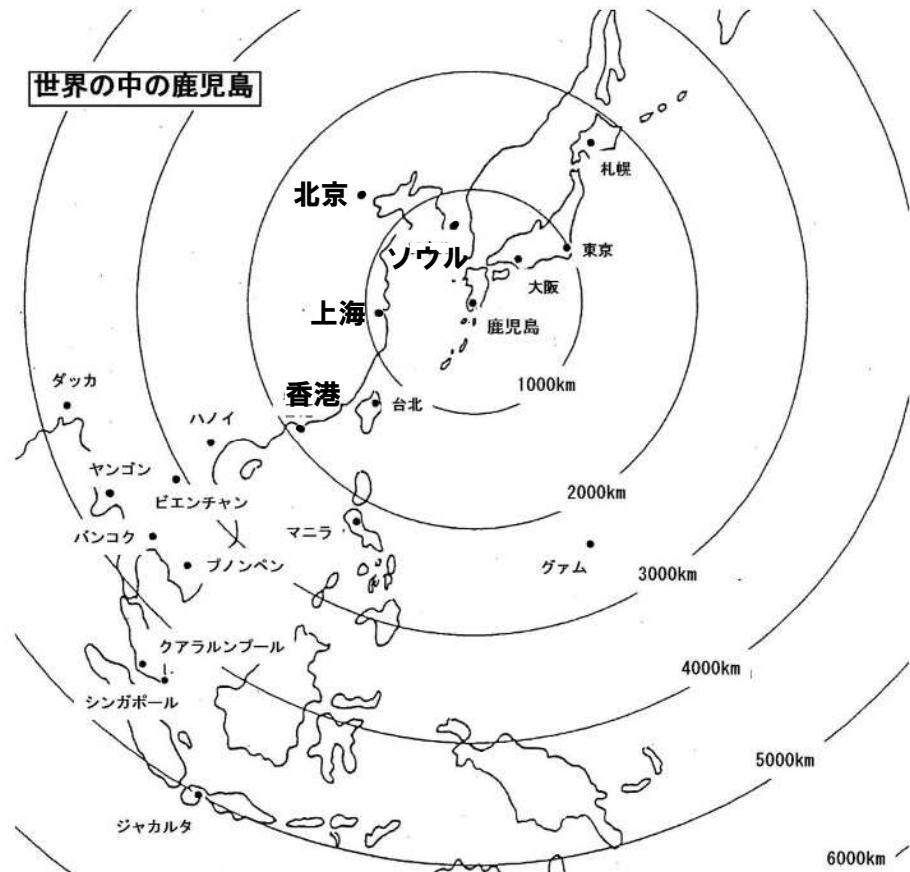


(資料:観光・文化スポーツ部「令和5年度鹿児島県スポーツキャンプ・合宿実施状況調査結果」)

令和5年度のスポーツ合宿の受入は、燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会が開催されたこともあり、受入人数は過去最高となり、南部九州総体が開催されたこれまで過去最高の令和元年度（約16万人）を大きく上回る結果となった。

4. 個別産業の動向 (6) 観光

オ 世界の中の鹿児島～アジアに開かれた鹿児島～



鹿児島空港の国際定期路線

路線	
ソウル線	大韓航空
	チェジュ航空
上海線	中国東方航空
台北線	チャイナエアライン
香港線	香港航空
	香港エクスプレス航空（運休中）

※ 令和7年1月末現在

(資料：総合政策部資料)

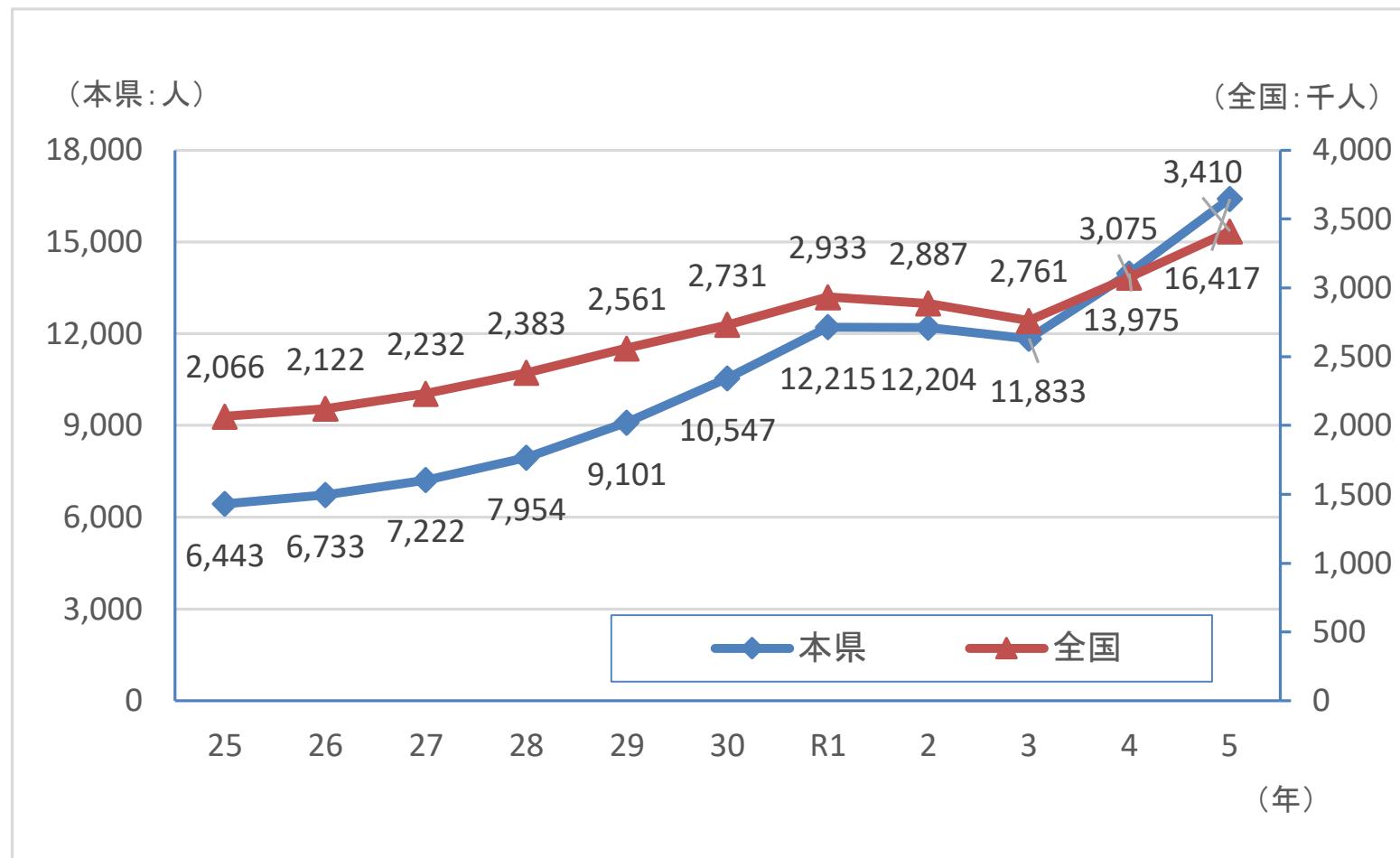
ソウル、上海、台北、香港等に近く、アジアの玄関口としての大きな可能性を秘めている。
地理的優位性を活かした観光振興の可能性がある。

5. 国際化の状況 (1) 交流等の状況

米国	ジョージア州	昭41 姉妹盟約締結 令元 姉妹盟約に係る確認書調印
香港		昭55～交流会議開催(隔年)
		昭60～県職員駐在(ジェトロ)
		平11 香港かごしまクラブ, 平14 かごしま香港クラブ設立
シンガポール		昭57～交流会議開催(隔年)
		平11 かごしまクラブシンガポール設立
韓国	全北特別自治道 (令和6年1月18日に全羅北道から名称変更)	平元 友好協定の推進に関する共同宣言調印
		平11 全羅北道かごしまクラブ設立
		平6～交流会議 → 平21～交流協議会
中国	江蘇省	平10～交流協議会開催
		平20 友好交流の促進に関する協議書調印
	上海	平9～県職員駐在(ジェトロ)
		平22 鹿児島県上海事務所 開設
	北京	平25 清華大学と包括協定(MOU)締結
英国	ロンドン・カムデン区	平30 友好協定を締結
	マンチェスター市	
ベトナム	ハイズオン省	令元 連携協定(MOU)を締結
台湾	屏東県	令6 交流協定(MOU)を締結
市町村の交流		21市町が海外30都市等と姉妹・友好盟約締結

(資料:観光・文化スポーツ部提供)

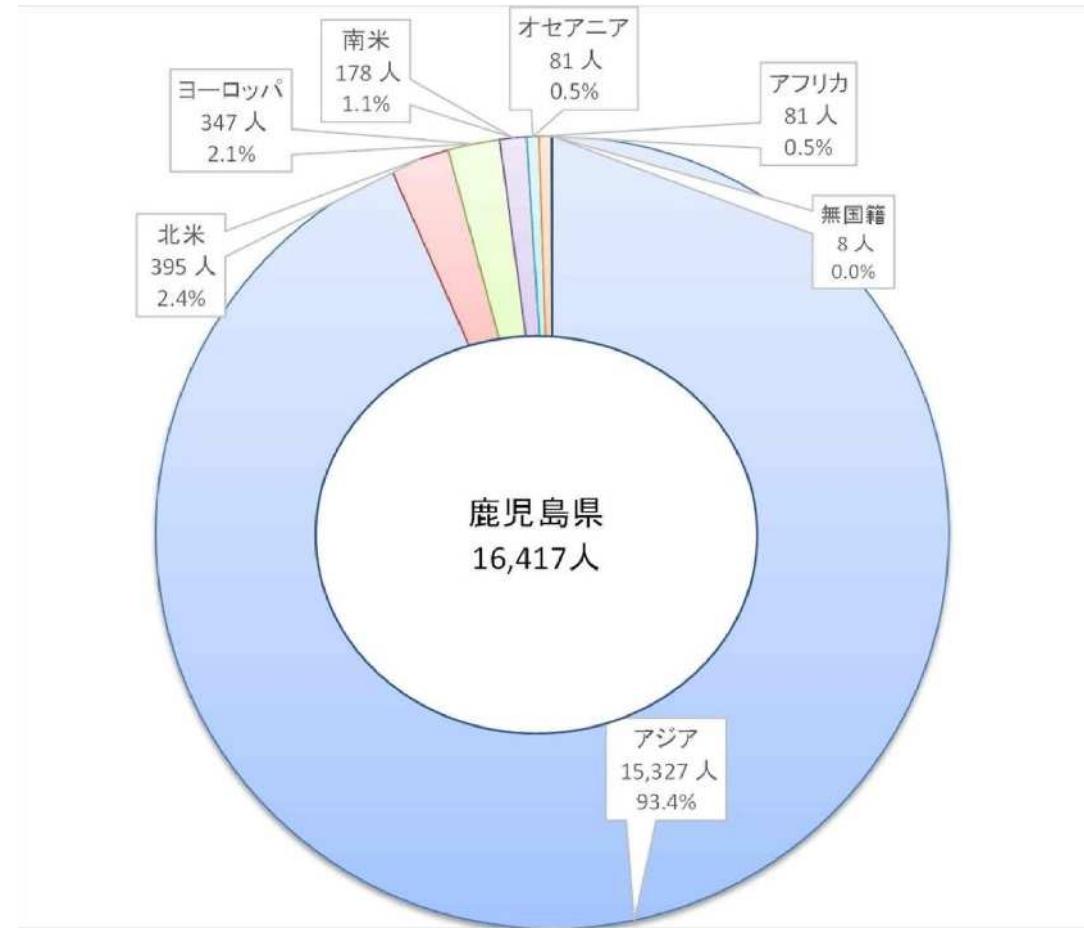
5. 国際化の状況 (2) 在留外国人等の推移



(資料:法務省「在留外国人統計」(各年12月末現在))

在留外国人数は、令和2・3年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり停滞したものの、全体としては本県・全国ともに増加傾向にある。

5. 国際化の状況 (3) 在留外国人地域別人数の割合

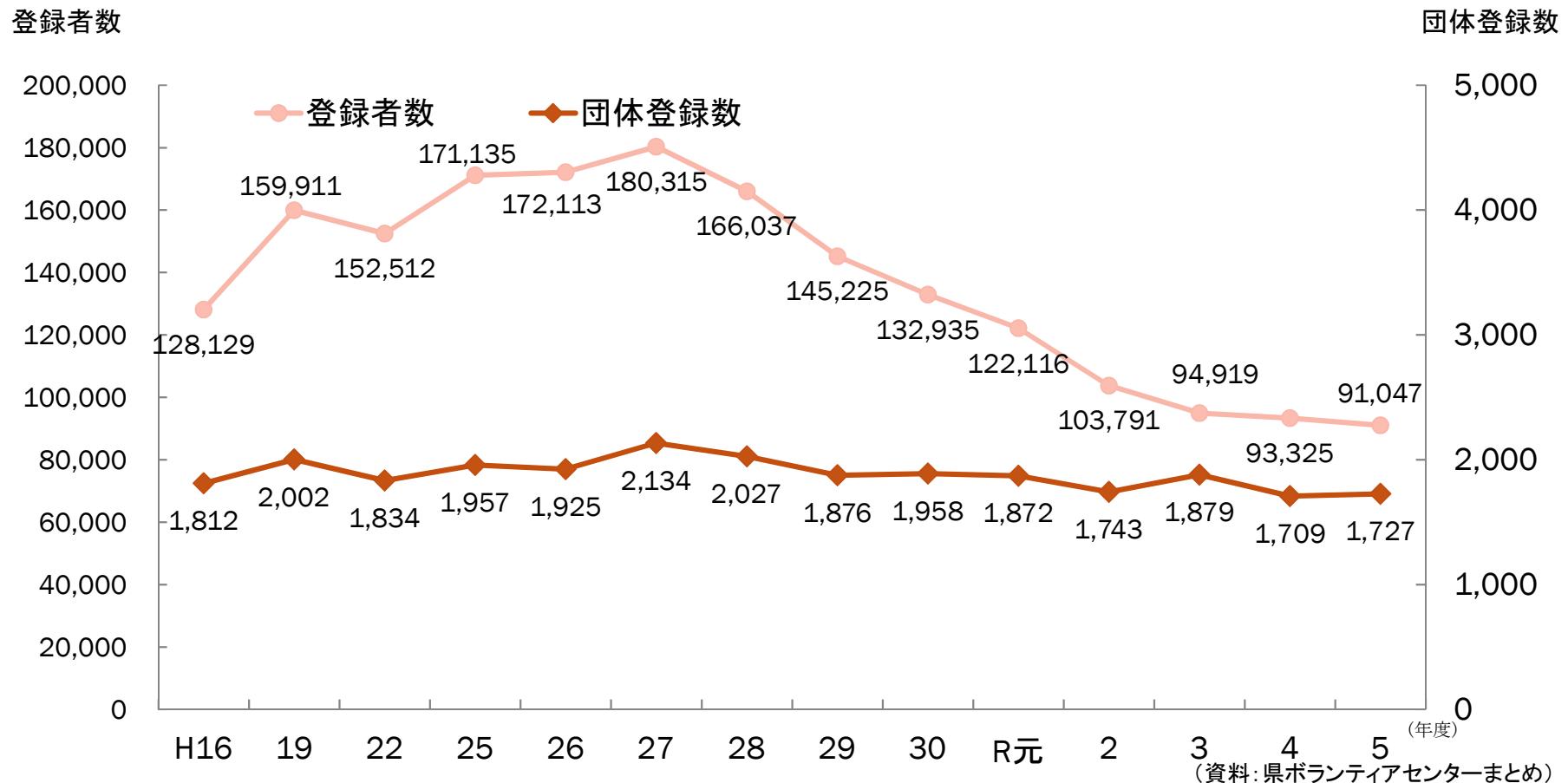


(資料:法務省「在留外国人統計」(令和5年12月末現在))

全体の93.4%がアジア地域出身者。

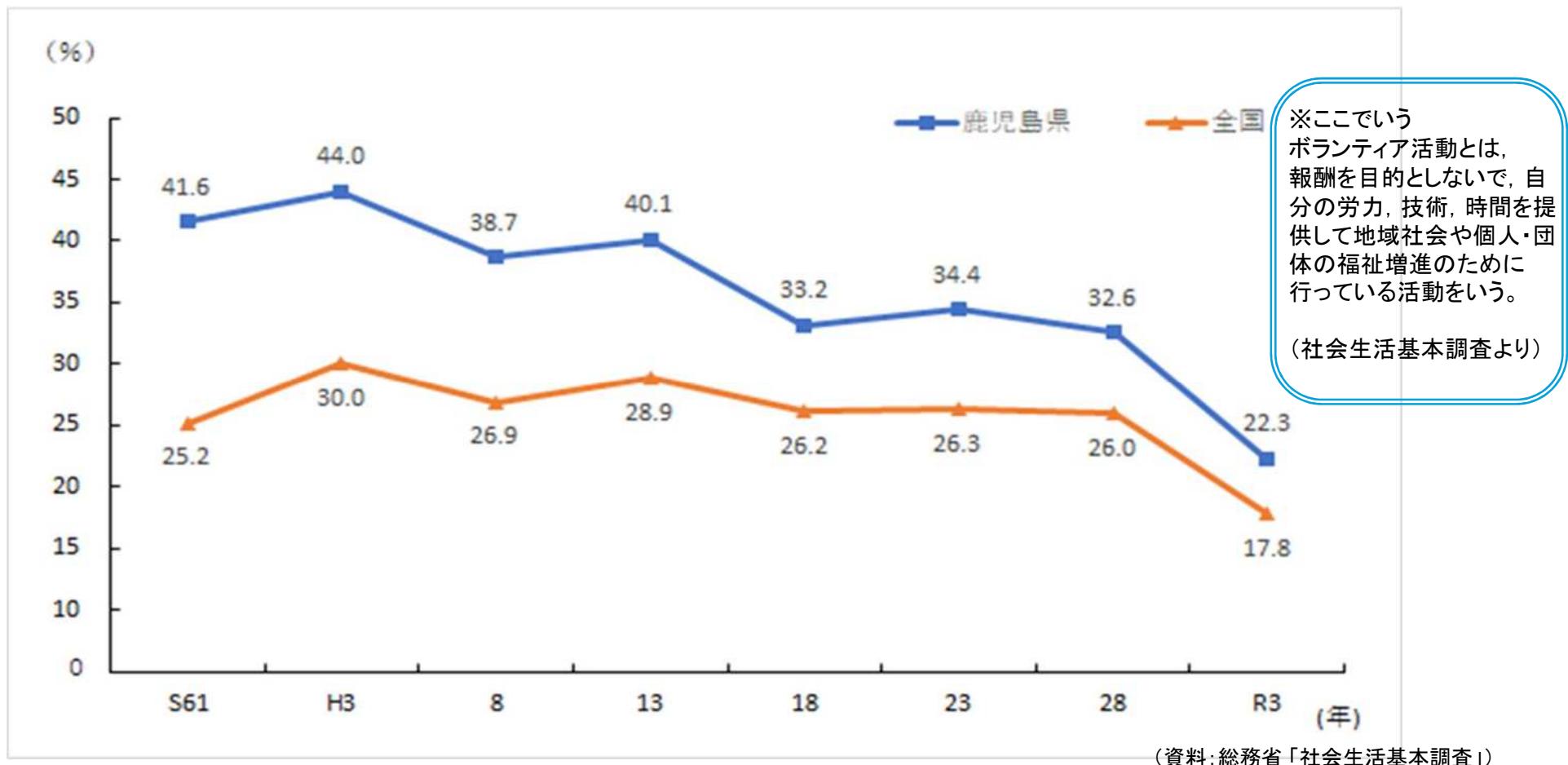
国籍別では、ベトナム(5,607人)が最も多い、次いでインドネシア(2,605人)、フィリピン(2,460人)、中国(1,717人)、ミャンマー(796人)となっている。⁴⁹

6. ボランティアの状況 (1) ボランティアの状況(登録数)



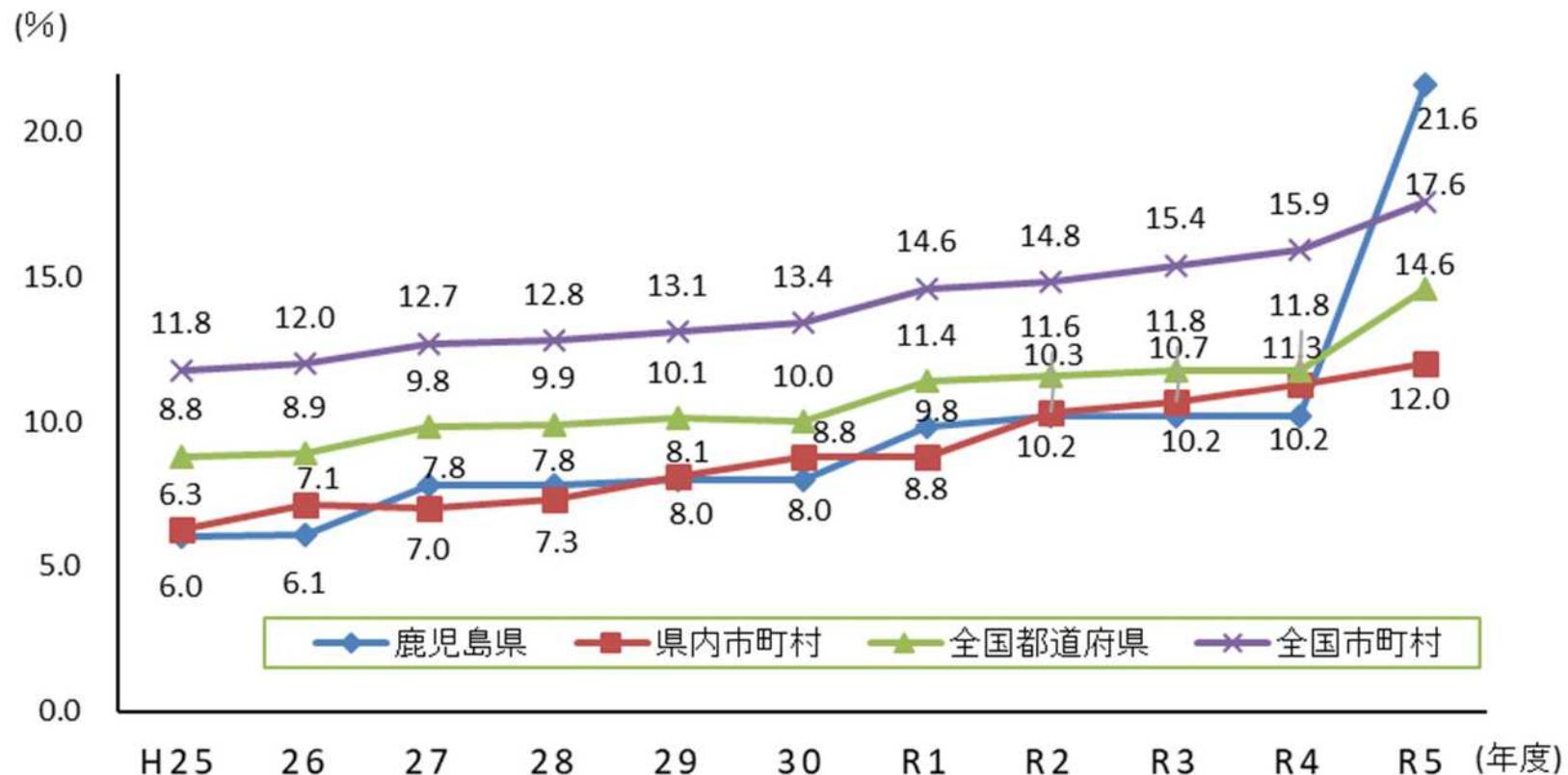
登録者数は、平成27年度には18万人を超えたが、平成28年度から減少傾向にあり、令和5年度は9万人程になった。
団体登録数は横ばい

6. ボランティアの状況 (2) ボランティア活動の年間行動者率の推移



若干減少しているが、全国平均よりも高く推移している。
ボランティア活動の年間行動者率は、22.3%（令和3年全国8位）
⇒ ボランティア精神が旺盛で共助・助け合いの精神がある。
(助け合いの精神・地域に残る連帯感の表れ)

7. 男女共同参画の状況 (1) 県,市町村議会における女性議員の割合



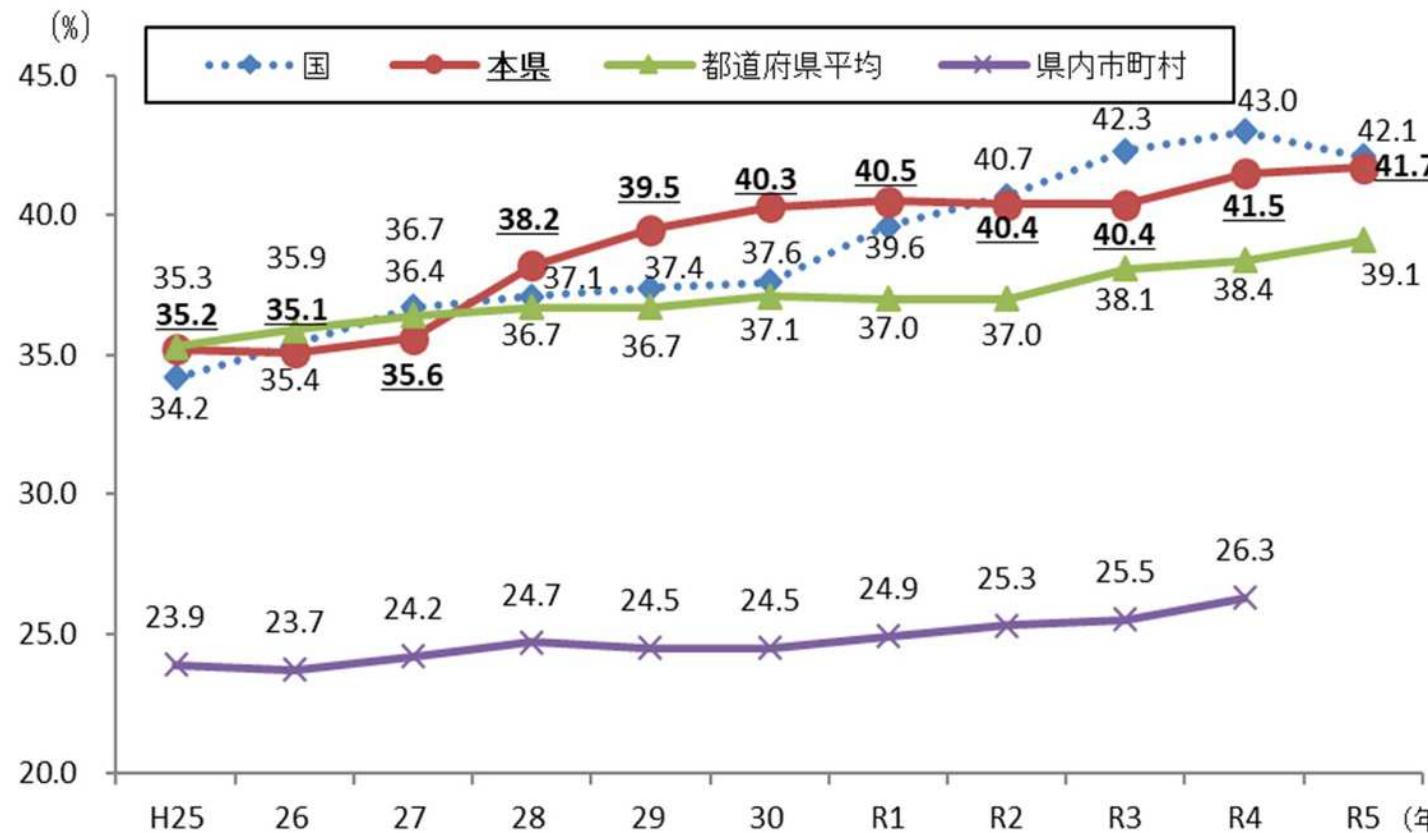
(資料:県勢概要(令和7年4月))

全国市区町村17.6% , 県内市町村12.0%

全国都道府県14.6% , 鹿児島県21.6%

⇒ 県は、令和5年度に全国平均を上回ったが、市町村は、
全国平均より低い

7. 男女共同参画の状況 (2) 審議会等における女性委員の割合の推移

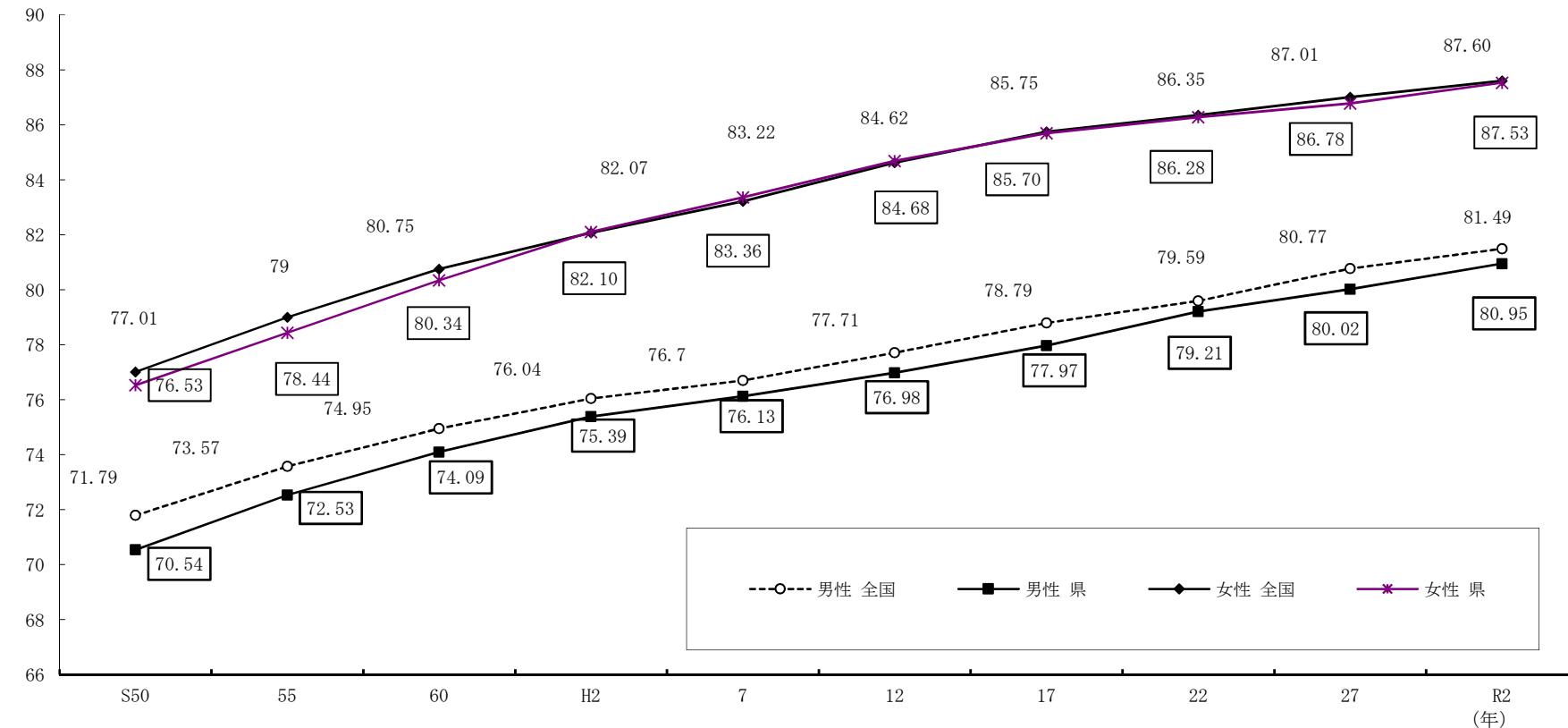


(資料: 県勢概要(令和7年4月))

県の女性委員の割合は年々上昇傾向にあり、平成30年度以降は40%以上を保っている。
令和5年度末：県41.7% 国42.1%

8. 保健医療福祉の状況 (1) 平均寿命の推移

(年齢)

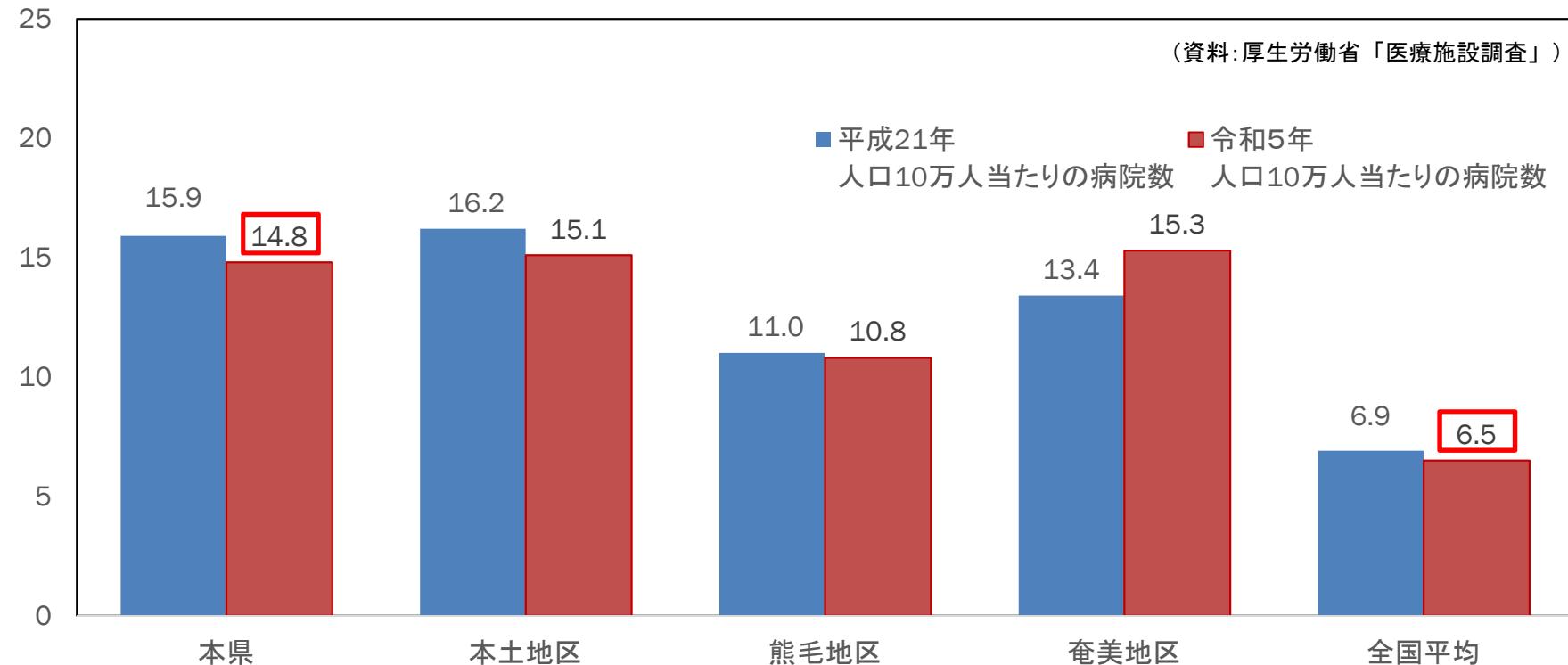


(資料：厚生労働省「都道府県別生命表」)

令和2年の本県平均寿命は、女性が87.53歳、男性が80.95歳
ここ30年で女性が5.43歳、男性が5.56歳伸びている。

※ 平均寿命=0歳児の平均余命

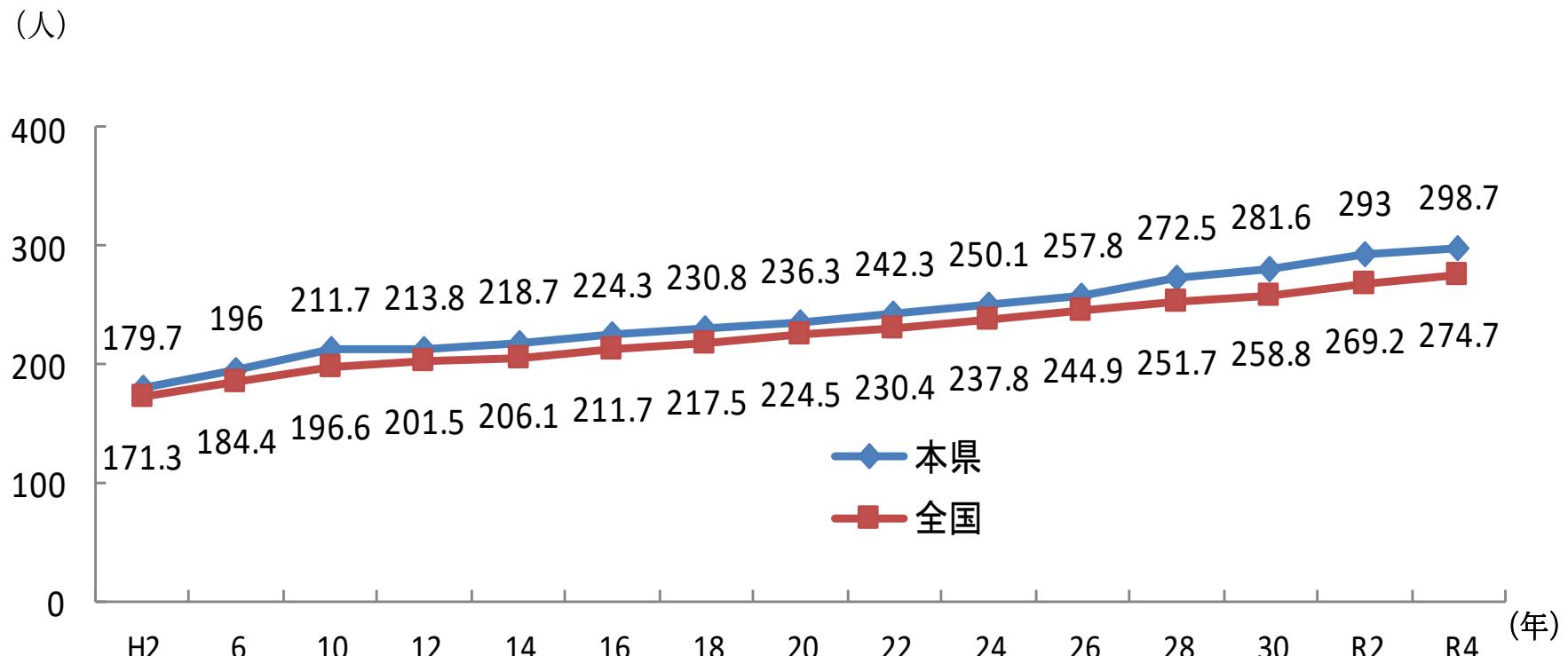
8. 保健医療福祉の状況 (2) 医療機関の数



人口10万人あたりの病院数は、全国平均の約2.3倍

8. 保健医療福祉の状況 (3) 医師数の現状

(人口10万人当たりの医師数)

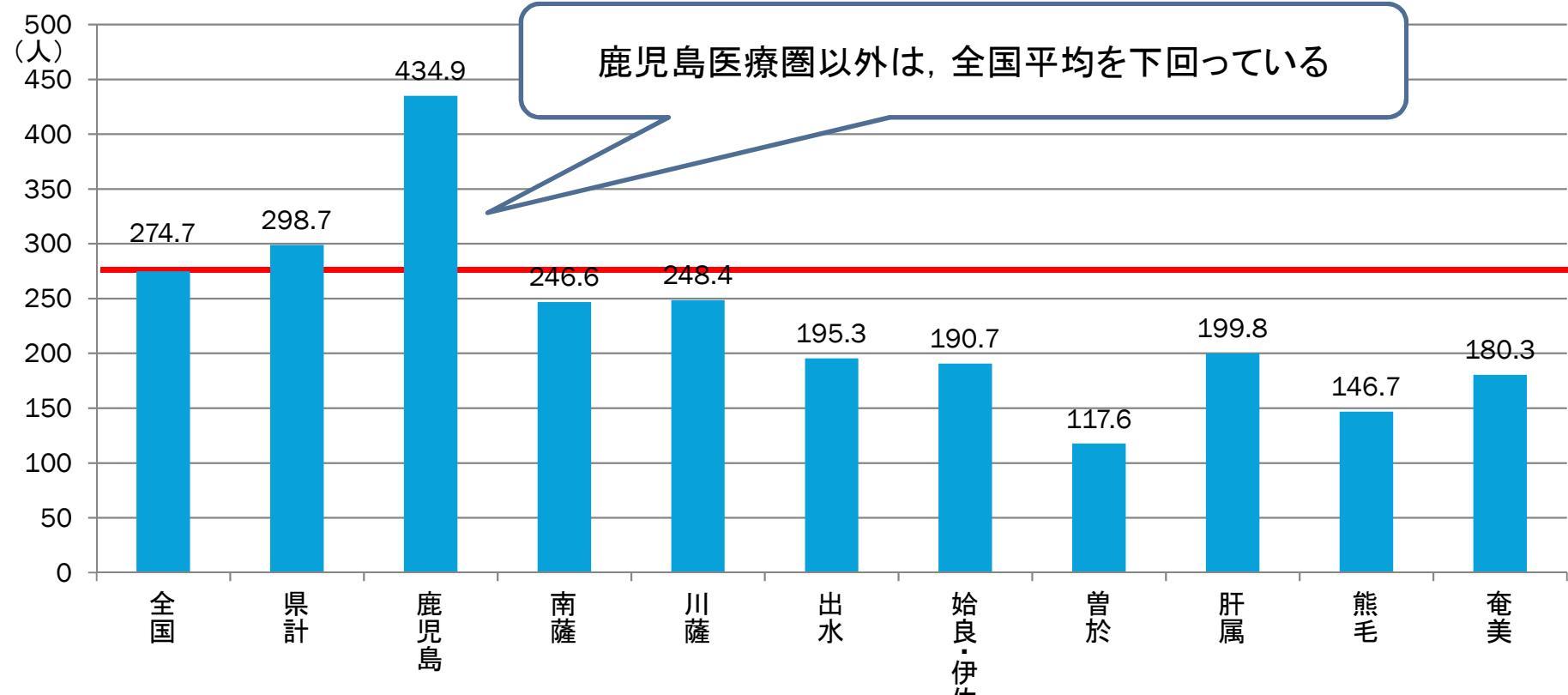


(資料:厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計(調査)」, 総務省「推計人口」)

人口10万人当たりの医師数は、全国平均の医師数を上回っている。

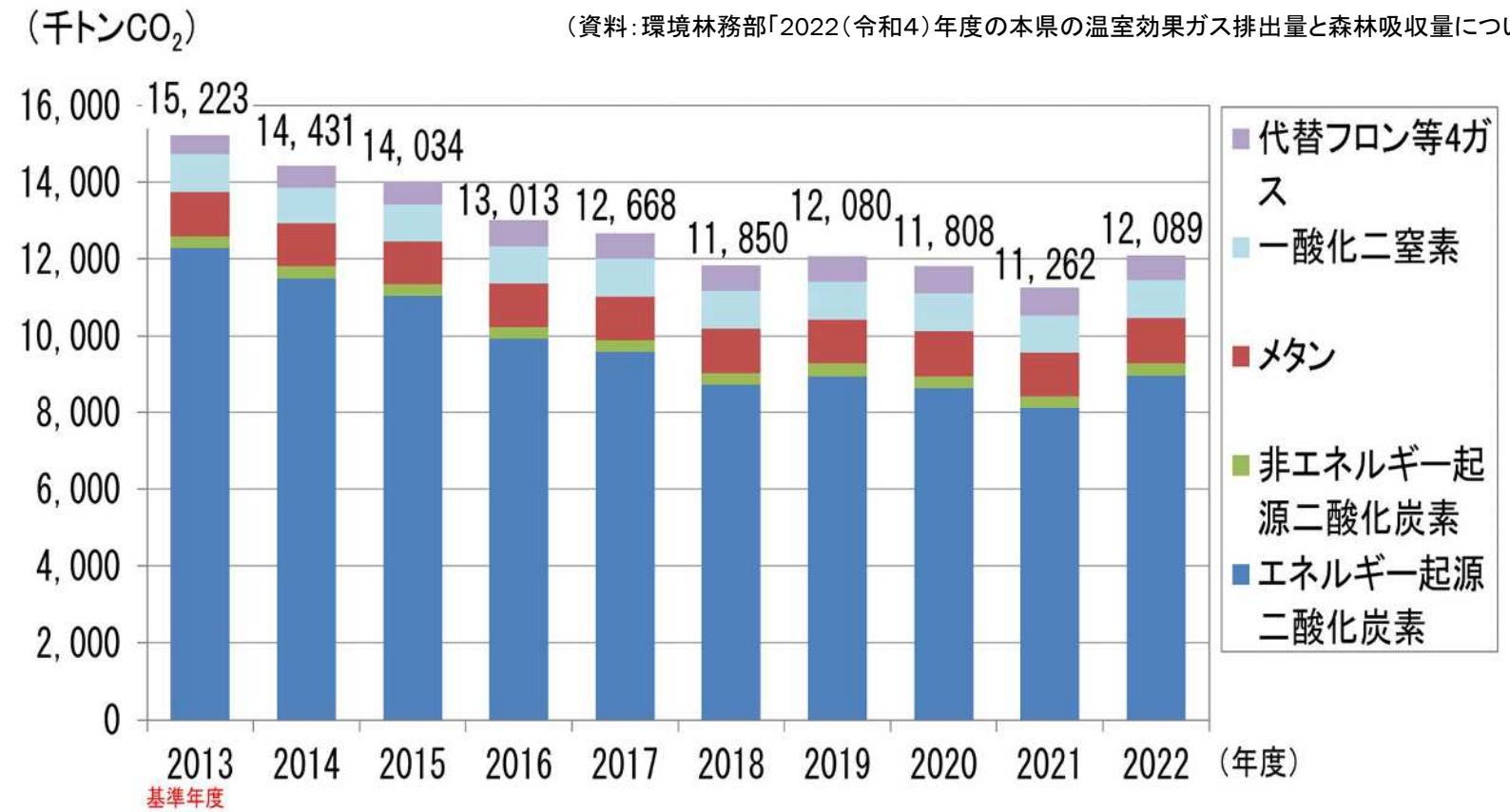
8. 保健医療福祉の状況 (4) 2次医療圏毎の人口10万人当たりの医師数

(資料:厚生労働省「令和4年 医師・歯科医師・薬剤師統計」, 総務省「推計人口」, 鹿児島県「令和4年度報」)



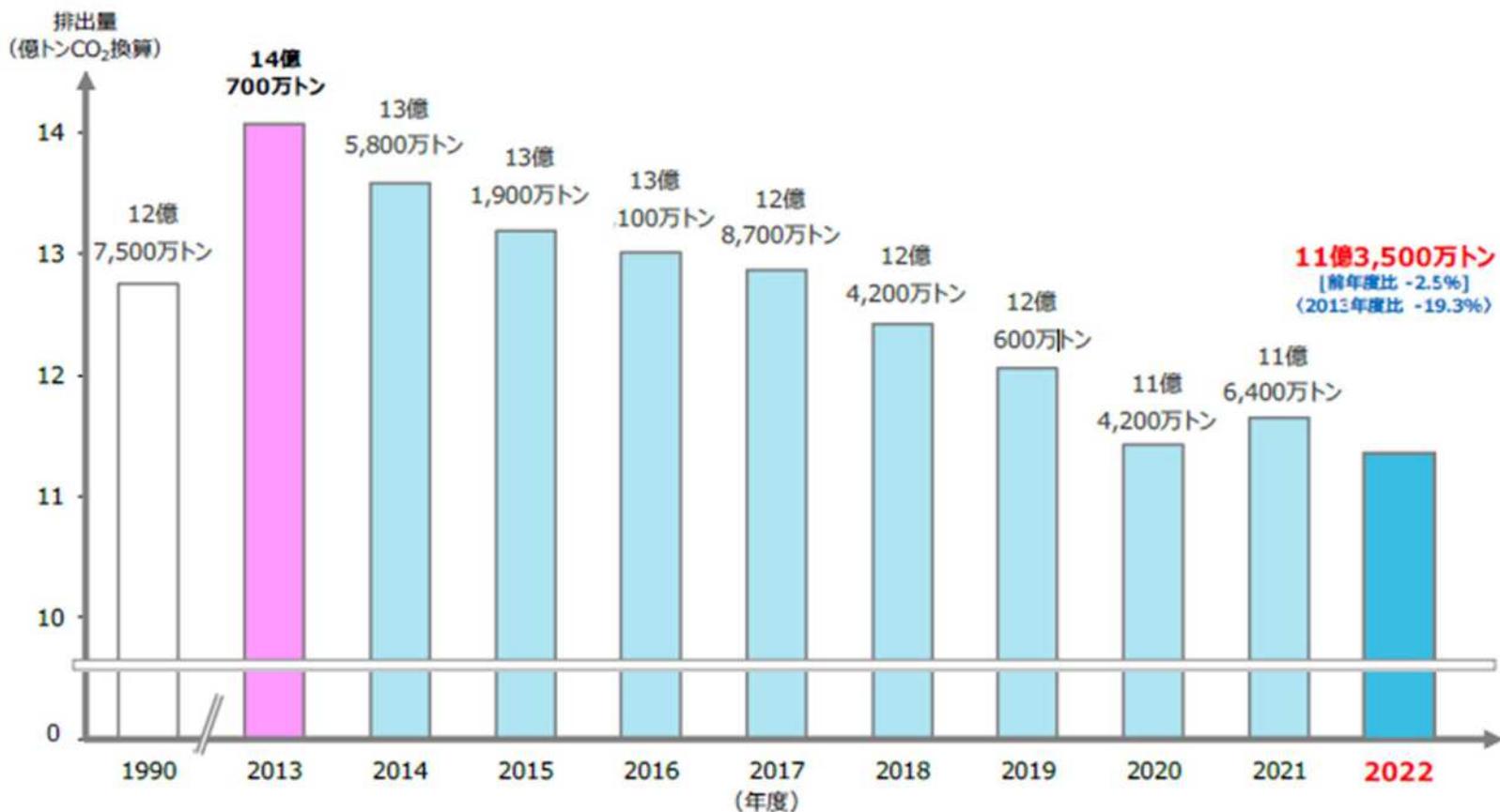
2次医療圏ごとの人口10万人当たりの医師数は鹿児島医療圏以外
は全国平均を下回っている。

9. 生活環境衛生の状況 (1) 本県の温室効果ガス排出量の推移



本県の2022年度の温室効果ガス総排出量は1,208万9千トンであり、2013年度（基準年度）の総排出量（1,522万3千トン）と比べて20.6%（313万4千トン）減少している。

9. 生活環境衛生の状況 (2) 全国の温室効果ガス排出量の推移

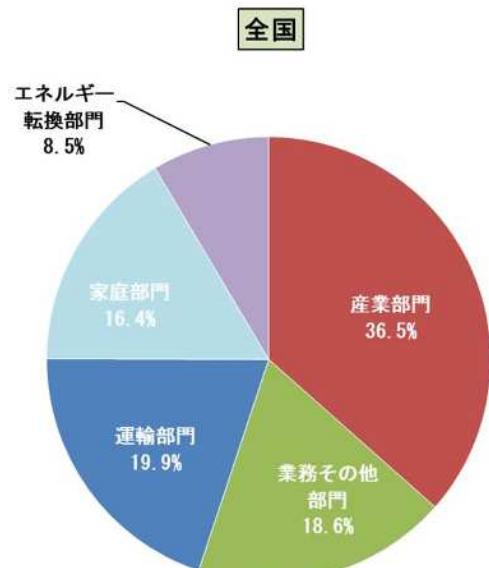


(資料:環境省公表資料(毎年度の温室効果ガス排出量(確報値)を基に作成))

全国の2022年度の温室効果ガス総排出量は11億3,500万トンであり、2013年度（基準年度）の総排出量（14億700万トン）と比べて19.3%（2億7,200万トン）減少している。

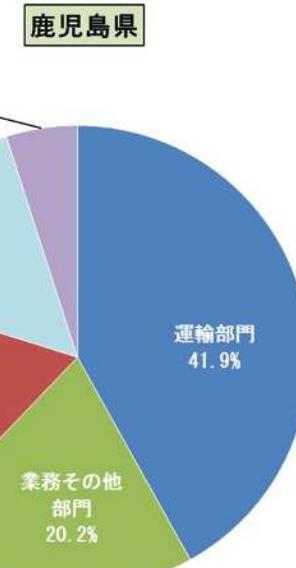
9. 生活環境衛生の状況 (3) エネルギー起源二酸化炭素排出割合

2022年度



エネルギー起源二酸化炭素排出量 : 963百万トンCO₂

(資料:環境省「日本国温室効果ガスインベントリ報告書2024年」)



エネルギー起源二酸化炭素排出量 : 8,964千トンCO₂

(資料:環境林務部資料「2022(令和4)年度の温室効果ガス排出量と森林吸収量について」)

部 門	定 義
産 業 部 門	農業、林業、漁業（第一次産業）や、鉱業、建設業、製造業等（第二次産業）における生産活動に伴って排出される温室効果ガスを計上する部門。
業務その他部門	事務所・ビル、商業・サービス業等（第三次産業）における事業活動に伴って排出される温室効果ガスを計上する部門（社用自動車からの排出を除く）。
家 庭 部 門	家庭における電気やガス等の使用に伴って排出される温室効果ガスを計上する部門（自家用自動車からの排出を除く）。
運 輸 部 門	自動車、船舶、航空機、鉄道による人や物の輸送等に伴って排出される温室効果ガスを計上する部門（社用・自家用自動車からの排出を含む）。
エネルギー転換部門	発電所における所内の自家消費分及び送配電ロスに伴って排出される温室効果ガスを計上する部門（販売電力からの排出を除く）。

エネルギー起源二酸化炭素排出量の部門別の排出割合については、全国は産業部門が大きい（36.5%）のに対し、本県は運輸部門が大きい（41.9%）。

10. 発展基盤の整備状況 (1) 道路

ア 道路の整備状況

(資料:国土交通省「道路統計年報2023」、
土木部「道路現況調書（令和5年4月1日現在）」)

区分	本県				全国	
	路線数	実延長 (km)	改良率 (%)	舗装率 (%)	改良率 (%)	舗装率 (%)
一般国道	19	1,297	99.1	100.0	93.2	99.5
県道	278	3,592	83.2	100.0	71.2	96.9
国・県道計	297	4,889	87.4	100.0	77.8	97.7
市町村道	38,442	22,525	70.6	91.0	60.1	80.0
国・県・市町村道計	38,739	27,414	73.6	92.6	64.0	82.7

改良率・舗装率ともに全国より高いが、高規格幹線道路及び地域高規格道路の整備率は未だ低く、早期整備に取り組む必要がある。

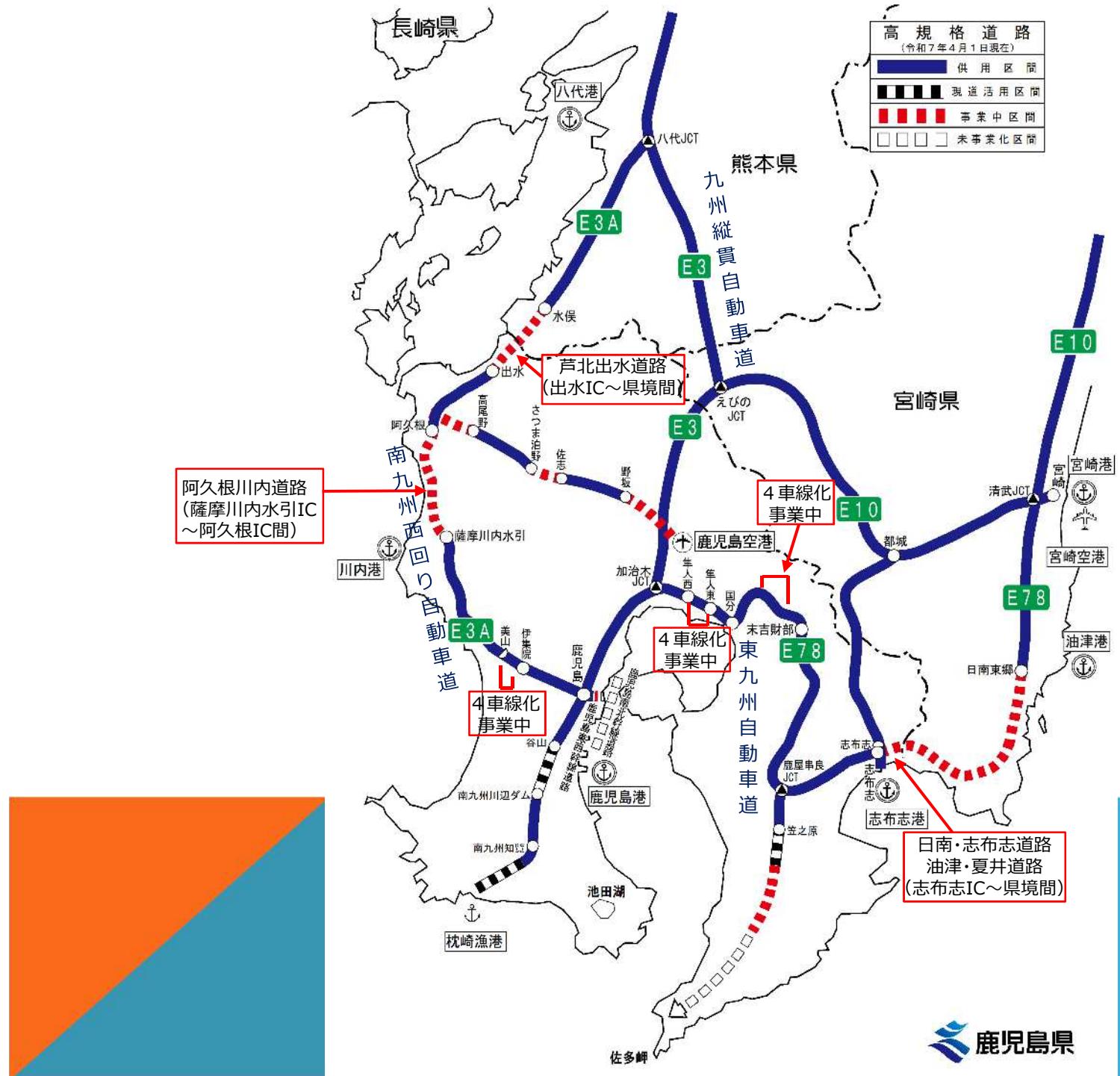
10. 発展基盤の整備状況 (1) 道路

イ 高規格道路の整備状況 ①

(資料:土木部資料)

路線名	区間	延長	整備状況等
九州縦貫自動車道	福岡県 北九州市 ～鹿児島市	約428km 県域 約67km	全線4車線以上供用済
東九州自動車道	福岡県 北九州市 ～鹿児島市	約436km 県域 約91km	加治木JCT～志布志IC間 (82.6km) : 供用済(一部暫定2車線) 加治木IC～隼人西IC間 (3.6km) : 4車線化供用済 隼人西IC～隼人東IC間 (3.7km) : 事業中 (4車線化) (令和7年夏頃完成予定) 国分IC～末吉財部IC間 (22.5kmのうち7.1km) : 事業中 (4車線化) 志布志IC～県境間 (8.1km) : 事業中
南九州西回り自動車道	熊本県 八代市 ～鹿児島市	約142km 県域 約90km	鹿児島IC～薩摩川内水引IC間 (46.2km) : 供用済(暫定2車線) 伊集院IC～美山IC間 (6.1kmのうち約2.3km) : 事業中 (4車線化) 薩摩川内水引IC～阿久根IC間 (22.4km) : 事業中 阿久根IC～出水IC間 (14.9km) : 供用済(暫定2車線) 出水IC～県境間 (7.8km) : 事業中

全線供用済は「九州縦貫自動車道」のみであり、
高規格幹線道路の供用率は85%となっている。



(資料:土木部(令和7年4月))

10. 発展基盤の整備状況（1）道路

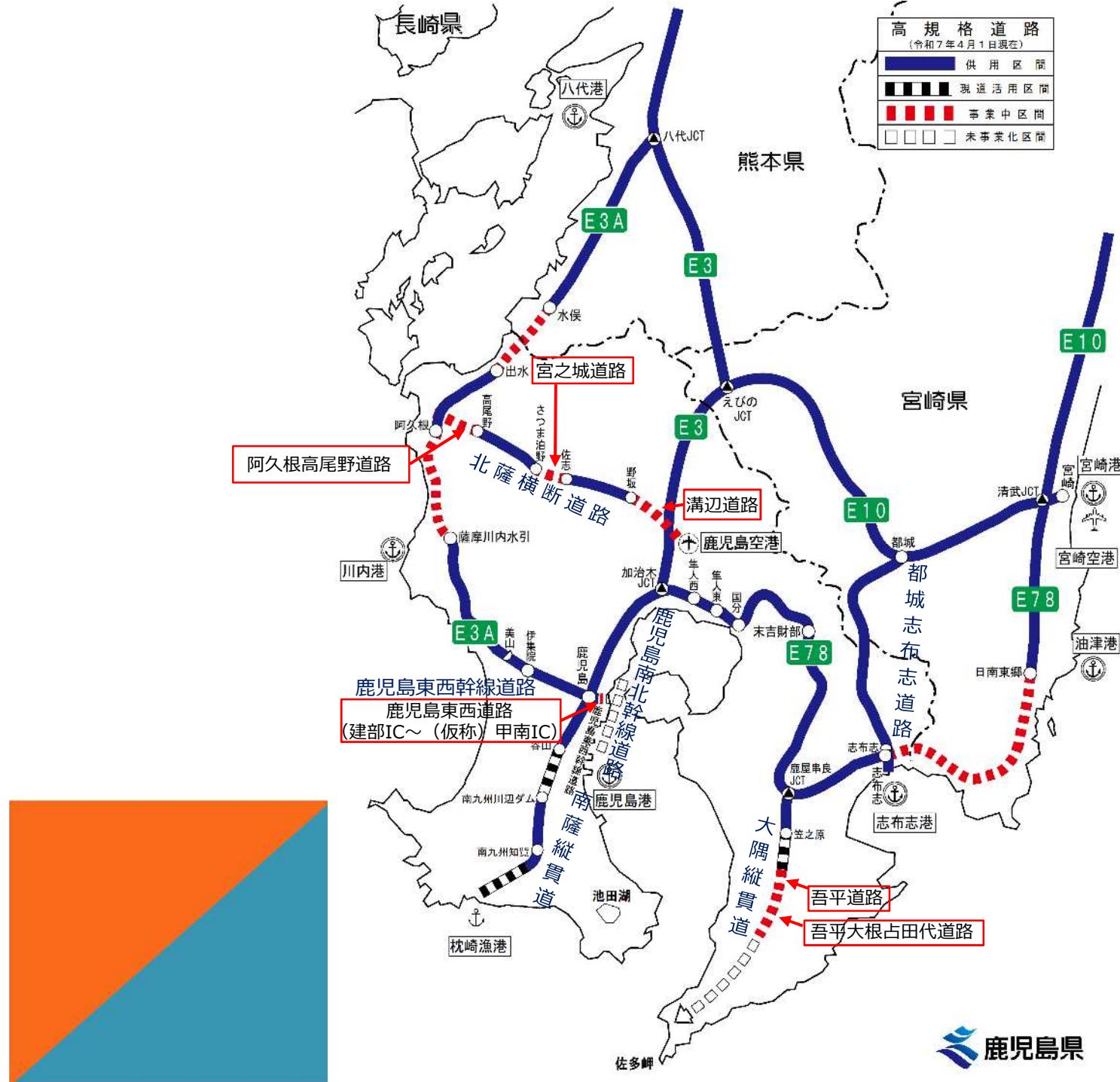
ウ 高規格道路の整備状況②

（資料：土木部資料）

路線名	区間	延長	整備状況等
北薩横断道路	霧島市 ～阿久根市	約64km	溝辺道路（約14km）：事業中 野坂IC～佐志IC間（16.4km）：供用済 宮之城道路（約10km）：事業中 さつま泊野IC～高尾野IC間（14.5km）：供用済 阿久根高尾野道路（8.9km）：事業中
都城志布志道路	宮崎県 都城市 ～志布志市	約44km (県域約22km)	県境～志布志港間（22.3km）：供用済
鹿児島東西幹線道路	鹿児島市 ～鹿児島市	約6km	鹿児島東西道路（3.4km）：事業中 ※鹿児島IC～建部IC間（2.2km）：供用済 甲南IC（仮称）以東（約3km）は未着手
鹿児島南北幹線道路	鹿児島市 ～鹿児島市	約10km	未着手
南薩縦貫道	鹿児島市 ～枕崎市	約47km	鹿児島IC～谷山IC間（7.6km）：供用済（指宿有料道路Ⅲ期） 南九州川辺ダムIC～南九州知覧IC間（10.4km）：供用済（自動車専用道路） 南九州知覧IC～塗木交差点間（5.2km）：供用済（一般道路） 上記以外の区間は現道活用
大隅縦貫道（Ⅰ期）	鹿屋市 ～錦江町	約33km	鹿屋串良JCT～笠之原IC間（6.1km）：供用済 吾平道路（4.2km）：事業中（R7供用予定） 吾平大根占田代道路（約16km）：事業中 笠之原IC～吾平道路間は現道活用
大隅縦貫道（Ⅱ期）	錦江町～南大隅町	未着手	

※大隅縦貫道（Ⅱ期）は供用率の算出に含めない。

高規格道路（高規格幹線道路を除く）の供用率は63%



(資料:土木部(令和7年4月))

10. 発展基盤の整備状況 (2) 空港

空港の状況

県内には、1つの国管理空港と7つの県管理空港

(資料:土木部資料)

鹿児島	種子島	屋久島	奄美	喜界	徳之島	沖永良部	与論
ジェット機	ジェット機		ジェット機		ジェット機		
国	県						

鹿児島空港の国際定期路線

路線		就航年月日
ソウル線	大韓航空	平成2年5月29日
	チェジュ航空	平成30年1月6日
上海線	中国東方航空	平成14年8月28日
台北線	チャイナエアライン	平成24年3月25日
香港線	香港航空	平成26年3月30日
	香港エクスプレス航空(運休中)	平成28年7月11日

※令和7年1月末現在

66

「鹿児島県の航空ネットワーク」

鹿児島からもっと海外へ



鹿児島県の全路線数：35路線（R7年3月末現在）

【内訳】

●鹿児島空港発着路線

国内線：17路線（79往復／日）

国際線：4路線（16便／週）

●離島空港発着路線

鹿児島空港発着路線：7路線（28往復／日）

県内離島間路線：4路線（5.5往復／日）

県外路線：10路線（9往復／日）

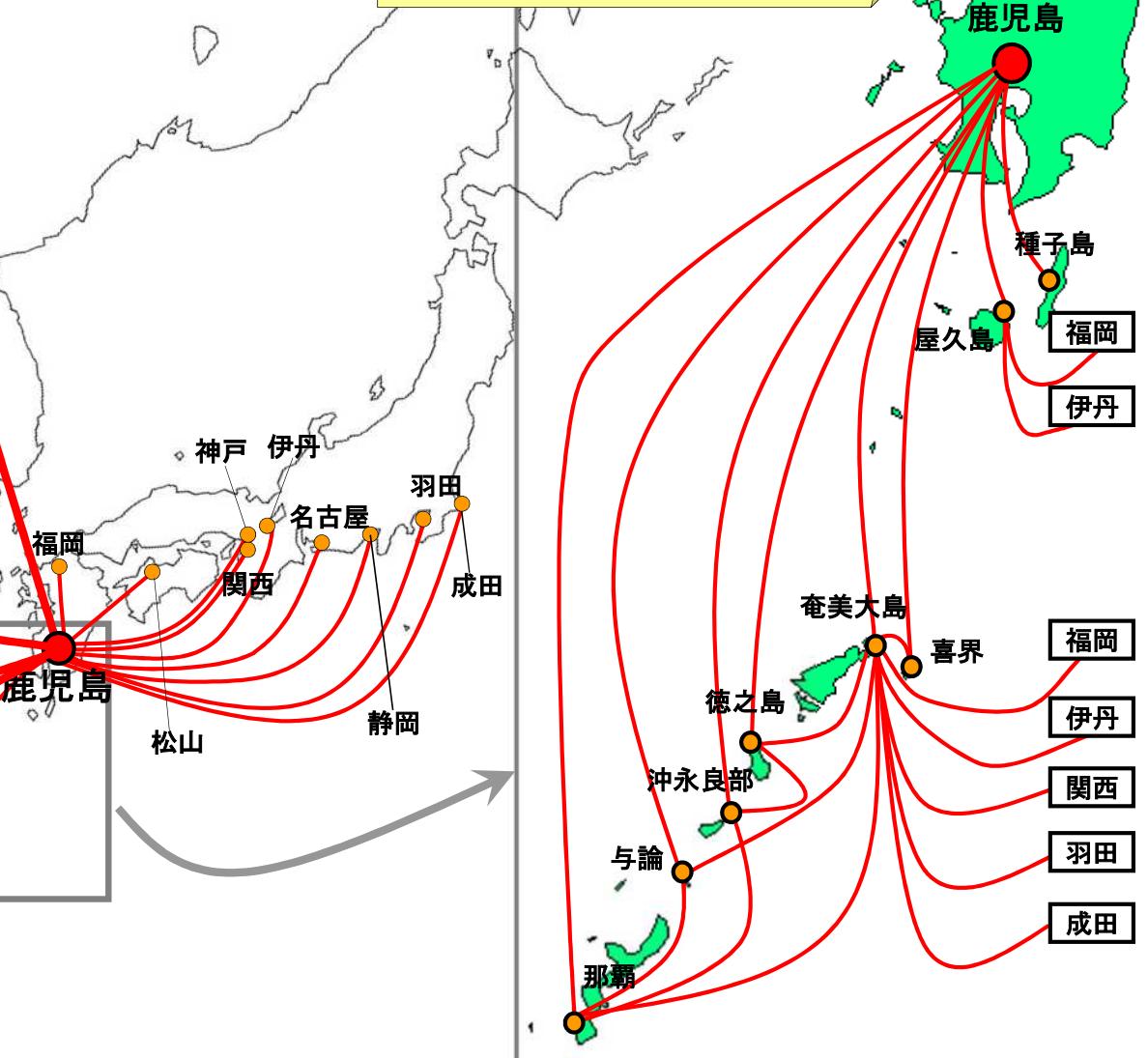
※三角運航・曜日運航あり

鹿児島空港利用者数（R6年速報値）

国内線：5,481千人

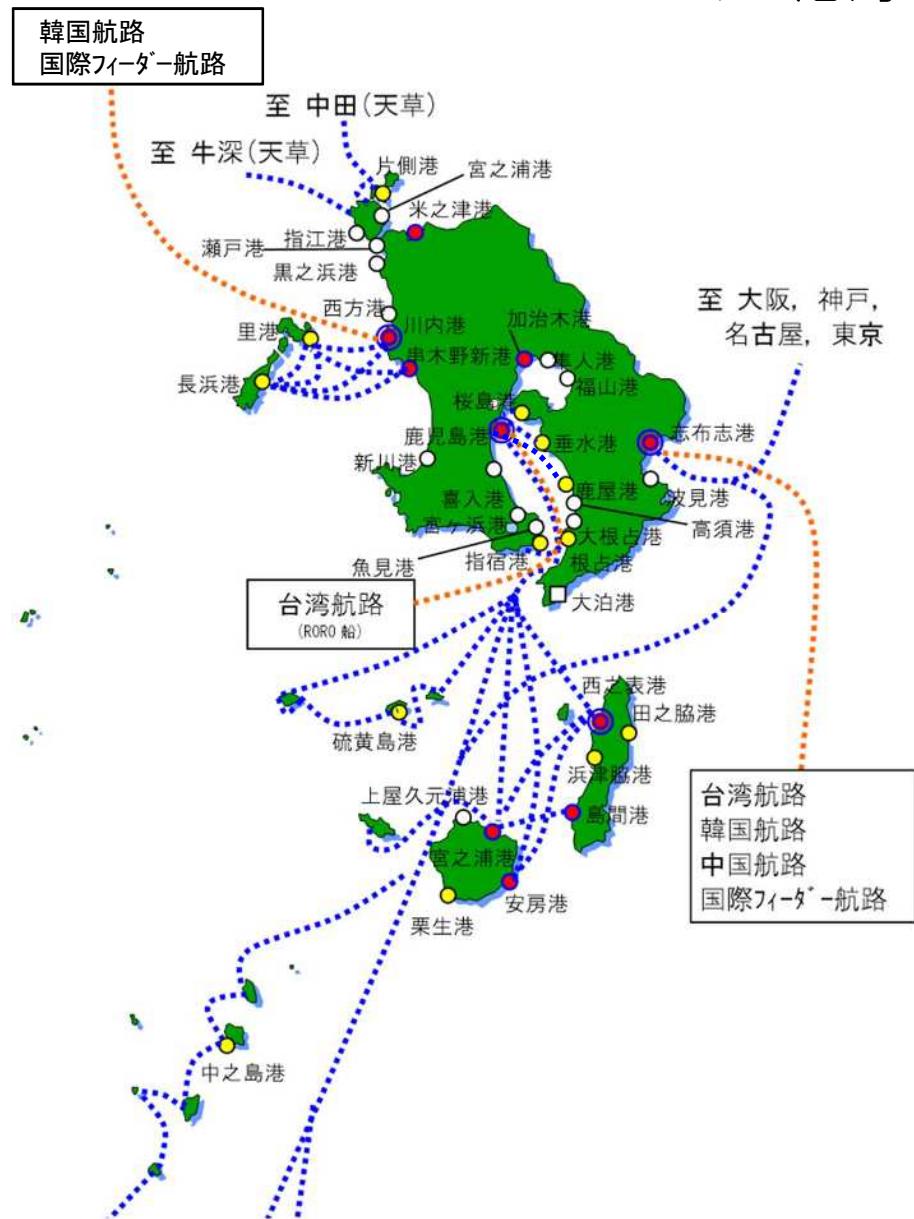
国際線：156千人

計：5,637千人



10. 発展基盤の整備状況 (3) 港湾

ア 港湾の状況



県管理港湾

◎重要港湾	5港
○地方港湾	41港
うち避難港	2港
合計	46港

市町村管理港湾 85港

令和7年3月現在

10. 発展基盤の整備状況 (3) 港湾

イ 5つの重要港湾について

(資料:土木部資料)

鹿児島港	錦江湾のほぼ中央部の薩摩半島側に位置する。 大隅半島や離島など県内をむすぶ人流・物流の拠点、また錦江湾や桜島といった雄大な自然を有し、多くのクルーズ船が寄港するなど国内外の交流拠点として重要な役割を果たしている。
志布志港	九州南東部の志布志湾内に位置する。 アジア地域を中心とした海外や国内各地を結ぶ南九州の物流拠点として重要な役割を果たしている。
川内港	九州南部の西端、川内川の河口に位置する河口港である。 東シナ海に面し、わが国の港湾の中でも中国など東アジアの諸国と近い位置にあり、これらの国々と経済・文化の交流を図るのに適した条件を備えている。
西之表港	種子島の北西に位置する。 港の背後には西之表市の市街地が広がり、鹿児島や屋久島への定期フェリーや高速船が就航し、島の表玄関となっている。
名瀬港	奄美群島中最大の島である奄美大島の北西岸に位置する。 本土をはじめ奄美群島内の各港を結ぶ海上ネットワークの拠点、また、世界自然遺産である奄美大島の玄関口として、重要な役割を担っている。

10. 発展基盤の整備状況 (3) 港湾

鹿児島港

ウ 外貿コンテナ定期航路① ~国際物流~

令和7年3月現在

航路名	寄港地	寄港頻度	運行会社
台湾航路	博多～鹿児島～那覇～宮古～石垣 ～高雄	1便／週(木)	琉球海運

川内港

令和7年3月現在

航路名	寄港地	寄港頻度	運行会社
韓国航路	釜山～伊万里～三池～川内～釜山	1便／週(月)	興亜ライン
	釜山～釜山新港～志布志～長崎～熊本～川内～八代～伊万里～釜山	1便／週(水)	
	釜山～長崎～熊本～八代～川内～釜山	1便／週(水)	
	釜山～伊万里～門司～志布志～川内～釜山	1便／週(火)	
台湾航路	高雄～基隆～那覇～志布志～細島～大分～広島～松山～釜山～川内～那覇～基隆～台中	(休止中)	愛媛オーシャンライン
*国際フィーダー航路	神戸～川内～神戸	1便／週(土)	井本商運 OOCL

※国内の主要港で、基幹航路に接続する支線的航路のうち、国際コンテナ戦略港湾(阪神港・京浜港)と
国内各港を結び外貿コンテナの2次輸送を担う航路のこと。

(注)休止中の航路については、休止前の航路を記載している。

(資料:土木部資料)

10. 発展基盤の整備状況 (3) 港湾

志布志港 ウ 外貿コンテナ定期航路② ~国際物流~

令和7年3月現在

航路名	寄港地	寄港頻度	運行会社
台湾航路	基隆～台中～高雄～那霸～八代～釜山～松山～大分～細島～志布志～那霸～基隆	1便／週(土)	愛媛オーシャンライン
韓国航路	釜山～伊万里～門司～志布志～川内～釜山	1便／週(月)	高麗海運
	釜山～釜山新港～志布志～長崎～熊本～川内～八代～伊万里～釜山	1便／週(月)	長錦商船興亞ライン
	光陽～釜山～博多～門司～大分～志布志～高知～ひびき～光陽	1便／週(木)	
	釜山～志布志～大分～門司～博多～光陽～釜山	1便／週(火)	CMA CGM
	釜山～志布志～広島～松山～今治～伊予三島～水島	(休止中)	南星海運
	釜山～志布志～大阪～水島～大分	(休止中)	カメリアライン
中国航路	天津新港～大連～青島～福山～水島～広島～細島～志布志～寧波～上海	1便／週(水)	神原汽船
	寧波～上海～伊万里～福山～水島～広島～志布志～天津新港～大連～青島	1便／週(木)	
※国際フィーダー航路	志布志～神戸	1便／週(土)	井本商運 OOCL
	志布志～神戸～京浜	1便／週(火)	井本商運

※国内の主要港で、基幹航路に接続する支線的航路のうち、国際コンテナ戦略港湾(阪神港・京浜港)と

国内各港を結び外貿コンテナの2次輸送を担う航路のこと。

(注)休止中の航路については、休止前の航路を記載している。

(資料:土木部資料)

10. 発展基盤の整備状況 (4) 鉄道

九州新幹線 全線開業 平成23年3月12日

(資料:総合政策部資料)

ダイヤ	おおむね1時間に2本、上下で計77本	
	九州新幹線	鹿児島中央駅～博多間 最速1時間16分
	九州・山陽新幹線 相互直通運転	鹿児島中央駅～新大阪間 最速3時間44分
料金 (指定席)	博多までの通常料金(指定席)11,950円(片道)	

肥薩おれんじ鉄道 開業 平成16年3月13日

ダイヤ	1日47本
経営区間	八代駅(熊本県)～川内駅(116.9km, 28駅)
経営主体	肥薩おれんじ鉄道株式会社 (熊本、鹿児島両県合同による第三セクター)
鹿児島県側 出資者	鹿児島県、阿久根市、出水市、薩摩川内市

11. 教育 (1) 校種別学校数等

(資料:文部科学省「学校基本調査報告書」
県総合政策部「学校基本統計(学校基本調査報告書)」)

区分		学校数	在学者数	本務教員数
幼稚園		126	6,846	752
幼保連携型認定こども園		253	21,751	3,922
小学校		476	83,913	7,462
中学校		210	45,100	4,248
義務教育学校		17	1,434	291
高等学校	全日制	89	41,770	4,091
	定時制	(2)	130	27
	通信制	1(3)	15,400	389
特別支援学校		16	2,841	1,460
専修学校		38	6,471	535
各種学校		2	36	11
高等専門学校		1	1,098	69
短期大学		4	1,542	134
大学・大学院		6	17,408	2,096

(令和6年5月1日現在、単位:校、人)

11. 教育 (2) 学級数、1学級当たり児童・生徒数の推移

(資料:文部科学省「学校基本調査報告書」
県総合政策部「学校基本統計(学校基本調査報告書)」)

区分	H10	H15	H20	H25	H30	R3	R4	R5	R6	
小学校	学級数	5,123	4,862	4,753	4,582	4,813	4,953	5,019	5,040	4,999
	上記のうち 特別支援学級	201	263	337	482	878	1,219	1,307	1,378	1,421
	1学級当たり 児童数	24.1	22.3	20.7	20.1	18.9	17.9	17.5	17.1	16.8
中学校	学級数	2,349	2,112	1,950	1,812	1,799	1,847	1,873	1,901	1,936
	上記のうち 特別支援学級	103	130	170	220	333	406	435	482	537
	1学級当たり 生徒数	31.0	29.0	27.6	26.8	25.2	24.5	24.2	23.8	23.3

(令和6年5月1日現在、単位:学級、人、%)

令和6年度における学級数

小学校4,999学級(前年度比△41学級)、中学校1,936学級(前年度比+35学級)

1学級当たりの児童・生徒数

減少傾向にあり、令和6年度では前年度より小学校で0.3人、中学校で0.5人少なくなっている。

11. 教育 (3) へき地・小規模校教育の振興

学級数別学校数(本校)

全学級数	5学級以下	6~11学級	12~18学級	19学級以上	計
小学校	175	162	56	79	472
中学校	90	61	30	27	208

(令和6年5月1日現在)

へき地等指定学校数(へき地教育振興法などによりへき地等の指定を受けている学校)

級地別	へき地 以外	特別地	準へき地	1級地	2級地	3級地	4級地	5級地
小学校 (472校)	284校 (60.2%)	14校 (3.0%)	22校 (4.7%)	21校 (4.4%)	19校 (4.0%)	33校 (7.0%)	23校 (4.9%)	56校 (11.9%)
中学校 (199校)	123校 (61.8%)	3校 (1.5%)	6校 (3.0%)	7校 (3.5%)	7校 (3.5%)	10校 (5.0%)	10校 (5.0%)	33校 (16.6%)

(令和6年5月1日現在)

(資料:文部科学省「学校基本調査報告書」
県総合政策部「学校基本統計(学校基本調査報告書)」)

小規模校：小学校：337校（71.4%），中学校：90校（43.3%）

（小学校で12学級未満，中学校で6学級未満のもの）

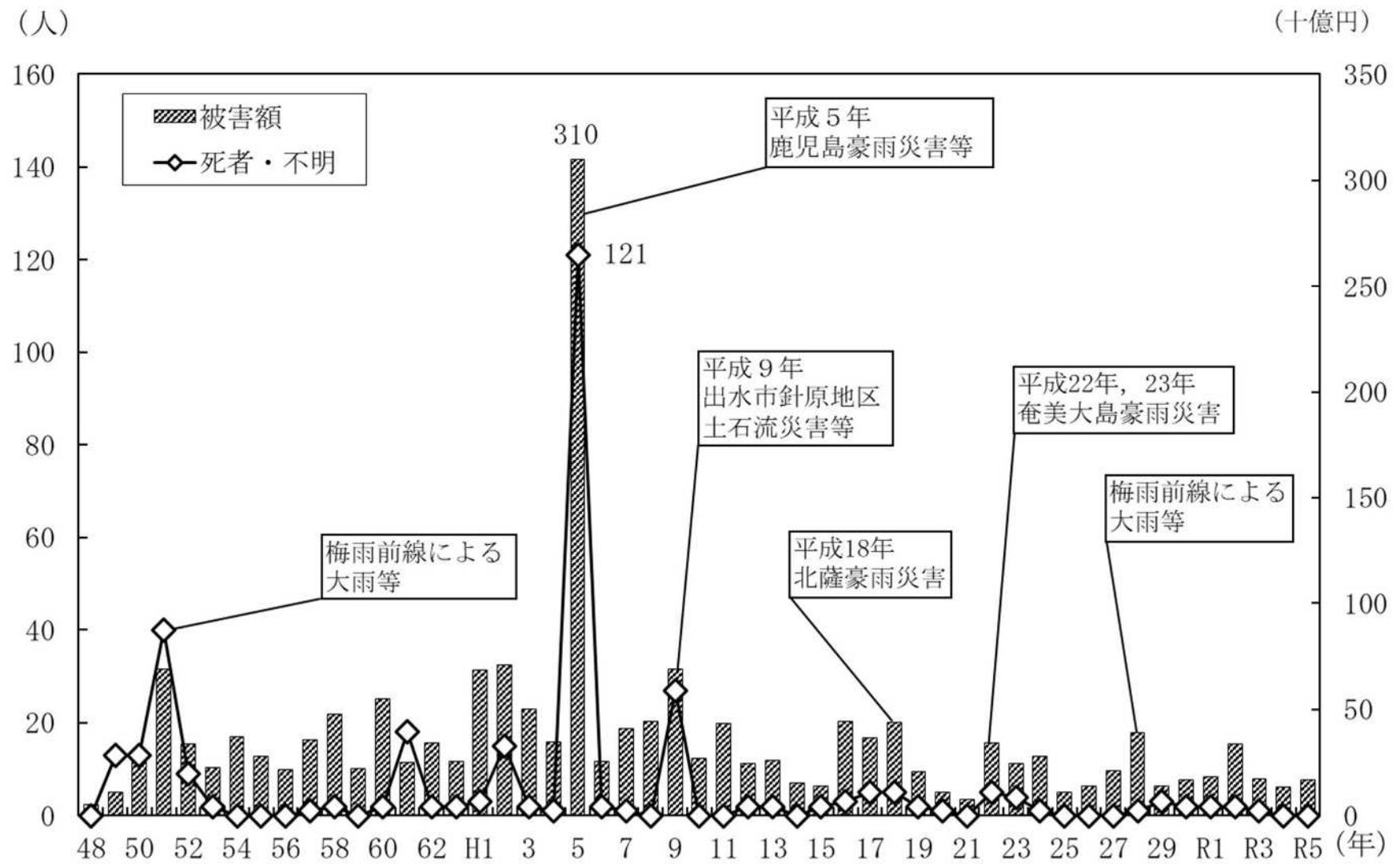
へき地等指定校：小学校188校（39.8%），中学校76校（38.2%）

※ 本県の特色として、小学校の約7割は12学級未満、中学校の約4割は6学級未満の小規模校が占めているため、1学校、1学級、教員1人当たりの児童・生徒数が少なくなっている。また、地理的要因からへき地等指定校が多い。

12. 安全・安心

災害の状況

(資料:危機管理防災局「災害の記録」)



地理的・自然的条件から台風や集中豪雨等による自然災害の発生が多い

13. 鹿児島のポテンシャル (1)

魅力ある観光資源

本県には、南北600キロメートルに及ぶ広大な県土の中に、美しい自然環境が織りなす四季折々の景観、特色ある島々、奥深い歴史を感じさせる名所、良質で豊かな温泉など、魅力ある観光資源が豊富にあります。

また、世界的に価値を認められた資源も豊富であり、国内で最多の3つの世界遺産（世界自然遺産：「屋久島」、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」、世界文化遺産：「明治日本の産業革命遺産」）を有しています。

【世界に誇る鹿児島の遺産群】

（屋久島）

屋久島は、自然美（樹齢1000年を超えるヤクスギの原生林が優れた景観を有していること）と、生態系（亜熱帯性の植物から冷温帯性の植物まで連続的に変化する植生が見られること）が高く評価され、1993年12月、我が国で初めて世界自然遺産に登録されました。

（明治日本の産業革命遺産）

本県の①旧集成館（反射炉跡、旧集成館機械工場、旧鹿児島紡績所技師館）、②寺山炭窯跡、③関吉の疎水溝の3つの資産は、幕末から明治期の重工業（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）における急速な産業化の道程を証言する産業遺産群の構成資産であり、これらは、8県11市にわたる23の資産で構成される世界文化遺産として、2015年7月に登録されました。2025年は、登録から10周年の節目を迎えます。



縄文杉



旧集成館（反射炉跡）

本県は、魅力ある観光資源や多様な「日本一」、安心・安全で豊富な「食」、豊かな自然環境など、多くの魅力や強み（ポテンシャル）を有しています。ここでは、その一部についてご紹介します。

13. 鹿児島のポテンシャル (2)

(奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島)

奄美大島及び徳之島は、国内最大級の亜熱帯照葉樹林に、アマミノクロウサギに代表される国際的にも希少な固有種が多く生息・生育する生物多様性保全上重要な地域であることなどが評価され、沖縄県の2つの地域とともに、2021年7月に世界自然遺産に登録されました。



ファンギョの滝



アマミノクロウサギ

多様な「日本一」を誇る鹿児島

本県は、恵まれた自然環境などを生かし、「肉用牛(黒毛和種)」や「豚」といった畜産物、「さつまいも」や「茶」などの農産物、養殖の「ブリ」・「カンパチ」・「ウナギ」の生産量が日本一であるなど、安心・安全でおいしい食物の宝庫です。

また、ツルの渡来数、ウミガメの上陸確認数、国内唯一のロケット打上げ施設の立地など、多様な「日本一」が存在しています。

家畜飼養頭羽数等

- ・肉用牛(黒毛和種)、豚、ブロイラーの飼養頭羽数が日本一
- ・第12回全国和牛能力共進会で「和牛日本一」
- ・全9部門中6部門で首席、「種牛の部」で内閣総理大臣賞を獲得



肉用牛(黒毛和種)

第12回全国和牛能力共進会第4区1席
内閣総理大臣賞



第12回全国和牛能力共進会
第8区1席



黒豚



ブロイラー

13. 鹿児島のポテンシャル (3)

農産物生産量



さつまいも



茶



オクラ



なつみかん



パッションフルーツ

水産物生産量

養殖ブリ, 養殖カンパチ, 養殖ウナギ, かつお節



養殖ブリ



養殖カンパチ



養殖ウナギ



かつお節

林産物生産量等

竹材, しきみ, 港別丸太輸出量 (志布志港)



竹細工



しきみ



志布志港野積場の木材

13. 鹿児島のポテンシャル (4)

その他

離島面積・人口、ツルの渡来数、ウミガメの上陸確認数、桜島大根（世界一大きい）、屋久島の縄文杉、蒲生の大楠、沖永良部のガジュマル、指宿の大ウナギ、金産出量、ロケット打上げ施設 等



出水のツル



桜島大根



蒲生の大楠
(根回り33mの日本一大きな木)

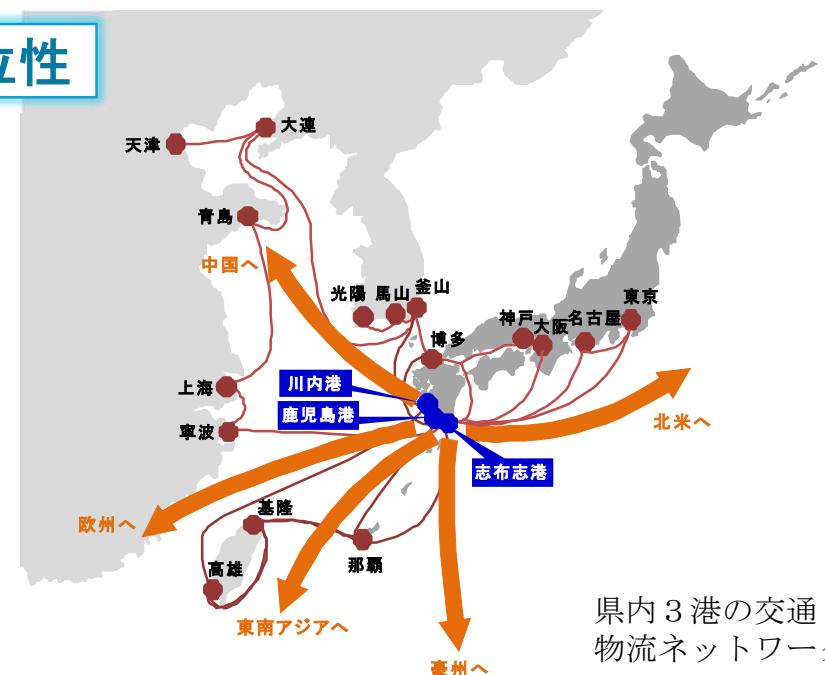


種子島宇宙センター

成長著しいアジアに近接した地理的優位性

本県は、我が国本土の最南端に位置し、世界の経済成長の6割を占めるアジアに近接しています。

こうした地理的優位性を生かした交通・物流ネットワークも構築されており、ソウル、上海、台北、香港といった各主要都市と定期航空路線で結ばれていますとともに、鹿児島港、川内港、志布志港の3つのCIQ機能を有する国際物流港湾があり、中国、台湾、韓国への国際定期コンテナ航路が開設されています。



13. 鹿児島のポテンシャル (5)

南北600キロメートルに広がる豊かな自然

本県は、紺碧の錦江湾に浮かび今も火山活動が続いている桜島、変化に富んだ長い海岸線、源泉数全国第2位を誇る豊富な温泉、温暖な気候と海の恵みをもたらしている黒潮など、豊かな自然環境に恵まれています。

また、日本で初めて国立公園に指定された霧島、日本で初めて世界自然遺産に登録された屋久島、アマミノクロウサギなど世界的にも貴重な動植物を有し、世界自然遺産に登録された奄美大島、徳之島など、世界でここにしかない自然環境が豊富です。

このような豊かな自然環境は、農林水産業の優れた生産基盤をなしており、黒豚、黒毛和牛、黒糖、黒酢、お茶、焼酎などの豊富な食品や、健康・長寿につながる豊かな食文化を育み、魅力あふれる観光資源にもなっています。



仙巖園(鹿児島市)
から望む桜島



たまで箱温泉(指宿市)



トカラ列島県立自然公園
(十島村)



雄川の滝(南大隅町)



百合ヶ浜(与論町)



黒酢つぼ畑(霧島市)



焼酎ブランドマーク



広大な茶畠で生産される
かごしま茶

13. 鹿児島のポテンシャル (6)

個性ある歴史と多彩な文化

本県は、縄文時代の上野原遺跡などが示すように、早くから人々が定住生活を営んでおり、また、黒潮に育まれた南方との様々な交流による文化やアジアの国々との長い交流の歴史があります。

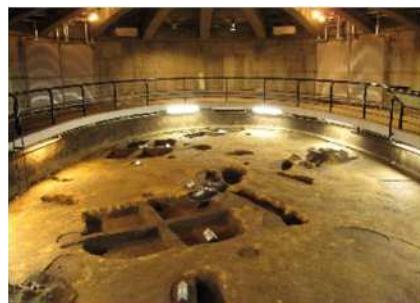
16世紀には、種子島への鉄砲伝来、フランシスコ・ザビエルによるキリスト教の布教など、遠くヨーロッパの文化に触れ、19世紀には、積極的に西洋文化を取り入れることに情熱を注ぎ、反射炉や各種工場の建設や英國への留学生派遣などを行いました。

また、日本が初めて公式に参加することになった第2回パリ万国博覧会に、幕府とは別のパビリオンで参加し、薩摩焼など郷土の特産品を出品するとともに、「薩摩琉球国勲章」を各国高官に贈るなど、薩摩を諸外国に強くアピールしました。

こうした先進的な取組を通じ、鹿児島は、当時の日本をリードする大きな力を持つようになり、新しい国家を樹立する原動力となりました。

また、本県は、いわゆる大和文化圏と琉球文化圏との接点であったことも影響し、民俗の宝庫と言われるほど個性豊かな祭礼行事や民俗芸能が存在し、各地で多様な生活文化が育まれています。

さらに、大島紬、川辺仏壇、薩摩焼や薩摩切子等の工芸技術など特色ある伝統文化や、世界文化遺産の構成資産である「旧集成館」など、我が国の近代化の魁となった産業遺産も多く存在しています。



上野原遺跡の遺構
(霧島市)



悪石島のボゼ
(十島村)



川辺仏壇



大島紬



薩摩焼

13. 鹿児島のポテンシャル (7)

南の風土に培われた資質に富んだ人材

本県は、西郷隆盛や大久保利通といった近代国家・日本の形成に大きく寄与した先人達を数多く輩出しました。

今なお、このような幕末の混乱期に未来を切り拓いた若者を育てた教育的風土や、地域全体で子どもたちを育てるという伝統的な地域の教育力は継承されています。

また、産業・経済・学術など様々な分野でも多くの優秀な人材を輩出しています。

南に開かれた地理的環境や世界と接する中で培われた明朗かつ達で進取の気性に富んだ県民性、南国特有の開放的で明るい気質は、国内外での交流を拡大する上で有利な点となっています。



西郷隆盛の像



大久保利通の像



五代友厚の像

優しく温もりのある地域社会

本県は、子どもや高齢者を対象としたボランティア活動を行う人の割合が全国の中でも上位であるなど、地域で支え合う仕組みが残っているとともに、地域づくりなど社会的な課題に市民が自発的・自立的に取り組むNPO法人数は、人口当たり全国上位と高い水準にあります。

このような中で、地域コミュニティやNPO、企業、学校などの多様な主体が県内各地域において、子育て世代の交流の場の提供や育児相談、放課後児童クラブの運営、都市・農村間の交流による過疎・高齢化地域の再生、河川・道路等の美化活動、障害者の自立支援など、様々な地域課題の解決に向けた取組を進めています。



放課後児童
クラブの様子



重富海岸の清掃
イベントの様子

13. 鹿児島のポテンシャル (8)

地域資源等を活用した個性ある産業

本県は、全国有数の第一次産業県であり、良質で豊富な県産農林水産物を活用した特定保健用食品(トクホ)や機能性表示食品、特産品といった各種の加工食品の開発・商品化など、地域資源を生かした新たな産業が創出されています。また、離島や中山間地域における独自性の高い地域資源を活用した旅行商品の造成も行われています。

さらに、シラスや火山灰、桜島溶岩等を活用した新素材の開発・実用化、新たに選抜された原料サツマイモや酵母を使用した特徴ある薩摩焼酎の開発など、様々な分野において本県企業の持つオンリーワンの技術を生かした研究開発や事業化が進行しています。



火山ガラス微粉末(VGP)を活用した
低炭素型コンクリート二次製品
(歩車道境界ブロック)



高香気性酵母を使用した薩摩焼酎